

山口東京理科大学調査特別委員会審査日程

日 時 平成30年3月16日(金)
午前10時
場 所 第2委員会室

～審査内容～

- 1 議案第49号 公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学中期目標
の変更について (大学)
- 2 山口東京理科大学薬学部建設工事について

平成 28 年 10 月 3 日に開催した「山口東京理科大学薬学部校舎
建設事業に係る説明会」に出席を依頼した業者一覧

ランク	No	会 社 名
A	1	嶋田工業株式会社
	2	太陽産業株式会社
	3	長沢建設株式会社
	4	富士産業株式会社
	5	ヘキムラ興業株式会社
B	1	株式会社アーステクノ
	2	株式会社オカケン
	3	かわさき株式会社
	4	進栄建設株式会社
	5	武田建設工業株式会社
	6	中原興業株式会社
	7	有限会社ヤマナカ建工
	8	株式会社吉田興産
	9	龍王建設株式会社

山口東京理科大学薬学部校舎建設事業に係る説明会

平成 28 年 10 月 3 日(月) 13 時から

山陽小野田市役所 3 階 第 2 委員会室

1 市長あいさつ

2 山口東京理科大学薬学部校舎建設事業についての説明

3 質疑応答

山口東京理科大学薬学部校舎建設事業に係る説明会

配 席 図

成長戦略室	成長戦略室 監理室
-------	-----------

成長戦略室	市 長 監理室長
-------	----------

長沢建設株式会社	太陽産業株式会社	嶋田工業株式会社
----------	----------	----------

へキムラ興業株式会社	富士産業株式会社
------------	----------

かわさき株式会社	株式会社オカケン	株式会社アーステクノ
----------	----------	------------

中原興業株式会社	武田建設工業株式会社	進栄建設株式会社
----------	------------	----------

龍王建設株式会社	株式会社吉田興産	有限会社ヤマナカ建工
----------	----------	------------

工事名称 山口東京理科大学薬学部増築工事
建設地 山陽小野田市大通一丁目1番1号ほか
主要用途 大学
工事種別 建築 増築 改築 改修 大規模の修繕室内装飾
用途変更 大規模の模様替 仮設建築解体 移設 移転

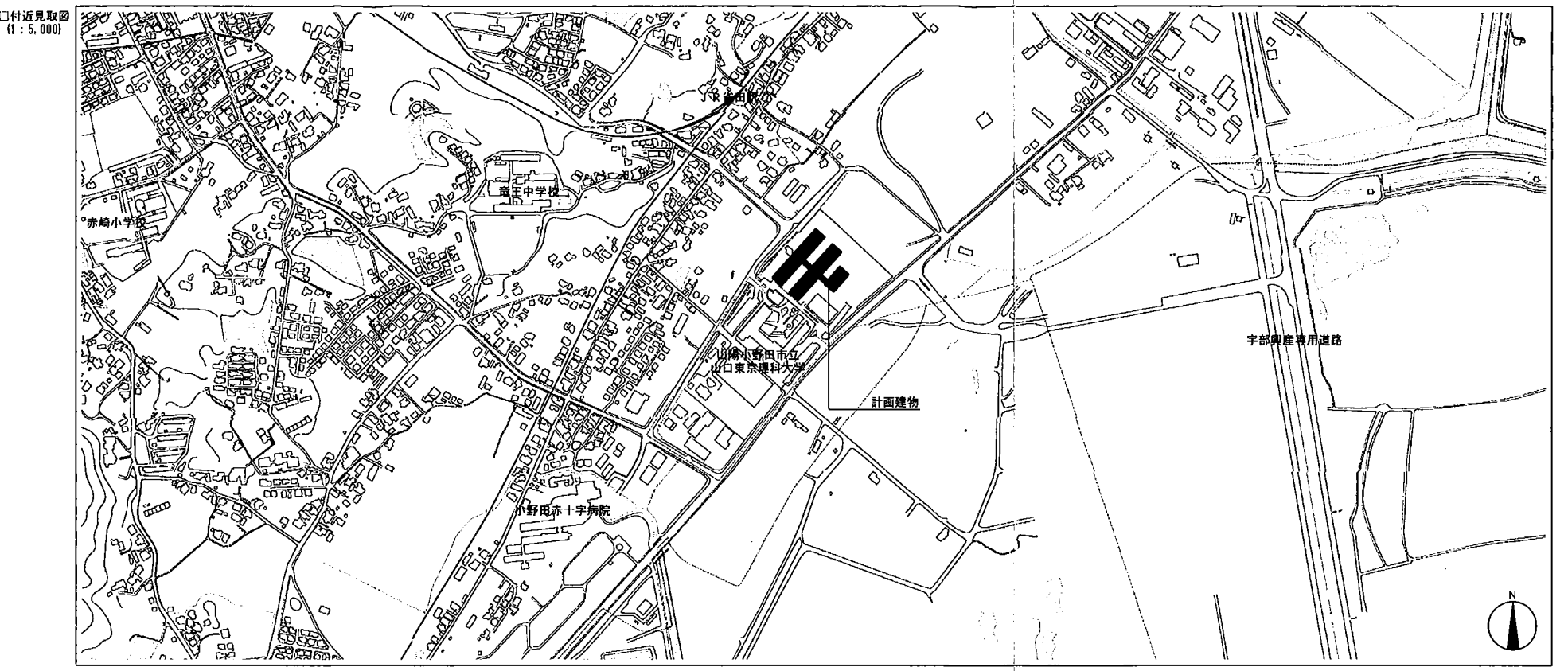
敷地状況
敷地面積 公簿 73,484.08㎡ (= 22,228.93坪)
用途地域 第一低層住宅・第二低層住宅・第一種中高層住宅・第二種中高層住宅
容積率 基準容積率 200%
許容容積率 200%

構造規模
構造 SRC造・RC造・PC造(鉄骨造)・軽量鉄骨造・CB造・木造・その他
耐火 耐火火(イ・ロ(1・2))
構造形式 2F・3F・4F・5F・6F・7F・8F・9F・10F・11F・12F・13F・14F・15F・16F・17F・18F・19F・20F・21F・22F・23F・24F・25F・26F・27F・28F・29F・30F・31F・32F・33F・34F・35F・36F・37F・38F・39F・40F・41F・42F・43F・44F・45F・46F・47F・48F・49F・50F・51F・52F・53F・54F・55F・56F・57F・58F・59F・60F・61F・62F・63F・64F・65F・66F・67F・68F・69F・70F・71F・72F・73F・74F・75F・76F・77F・78F・79F・80F・81F・82F・83F・84F・85F・86F・87F・88F・89F・90F・91F・92F・93F・94F・95F・96F・97F・98F・99F・100F

面積
建築面積 4,999.93㎡
延床面積 20,893.60㎡
合計 16,357.79㎡

床面積
A棟 PH 2,030.61
5 2,015.44
4 2,015.44
3 2,015.44
2 1,915.12
1 2,000.74
渡り廊下 5 135.53
4 74.07
3 74.07
2 74.07
1 133.20
B棟 PH 2,023.71
5 2,014.11
4 2,014.11
3 1,913.79
2 1,519.47
1 1,999.41
サブエントランス 111.83
C棟 2 698.25
1 698.25
合計 4,999.93

特記事項
・打放しコンクリート仕上げはA種とする。
・内装仕上げ材はF☆☆☆☆以上の仕様とする。
・天井裏仕上げ材はF☆☆☆☆以上の仕様とする。



凡例表
記号 下地材 記号 仕上材(塗装) 記号 仕上材(タイル)
CON エコリット打放し SOP 合成樹脂調合ベイト GB-R 石膏ボード
CB エコリット ロック EP 合成樹脂エポキシ樹脂イット GB-S シンク 石膏ボード

参考指定
仕上 品質グレード 参考メーカー
ウレタン塗膜防水 超速硬化ウレタン・ウレタン・複合工法 ダイワケム・UPM-10工法
外装薄塗材 E アクリル樹脂系・吹付・ジュウ・耐候性A法 アクリル樹脂系・ジュウ・耐候性A法

Table with columns: 棟名, 室名, 内装制限, SL, FL, 床仕上, 巾木, 巾木高壁下地, 壁仕上, 天井下地, 天井仕上, 廻縁, 天井高, 備考. Rows include 1階A棟 (e.g., 風除室, 守衛室), B棟 (e.g., 大講義室), and C棟 (e.g., 玄関, 階段A).

Table with columns: 棟名, 室名, 内装制限, SL, FL, 床仕上, 巾木, 巾木高壁下地, 壁仕上, 天井下地, 天井仕上, 廻縁, 天井高, 備考. Rows include 1階C棟 (e.g., 検疫室, 実験室), 2階A棟 (e.g., 中講義室), B棟 (e.g., 中講義室), C棟 (e.g., 空調機器室), and 3階A棟 (e.g., 研究室).

■外部仕上表

Table with columns: 屋根, 外壁, 廻廊, 外床. Details include 屋根 1~4, 6~9: 外装塗膜防水, 外壁 柱型: PC+外装仕上塗材, 廻廊 ECPt60+外装仕上塗材, 外床 コンクリート下地+磁器質タイルA.

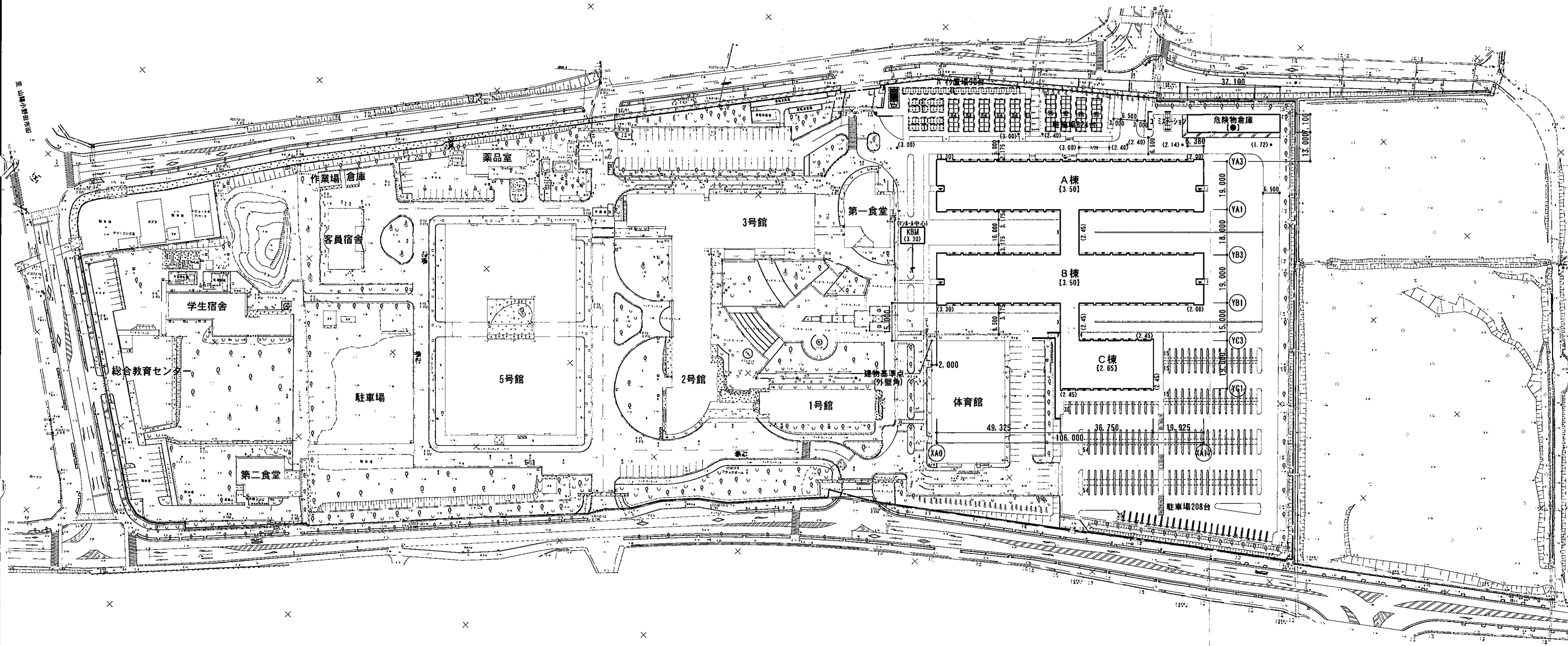
特記事項: A・B棟(空調室外壁面)・C棟(外壁面):現場発泡ウレタン吹付け(25+GB-R-H12.5(LGS)+指定仕上とする。【低温実験室】は、法第28条第一項ただし書に規定する「温度調整を必要とする作業を行う作業室」に該当するものとす。

あい設計 logo and company information: 株式会社あい設計 一級建築士事務所, 山口県東部支店(A)第276号.

Project metadata: JOB. NO. 201500141, DATE 2016, TITLE 山口東京理科大学薬学部増築工事, DWG. NO. A/06, SCALE 1/50.

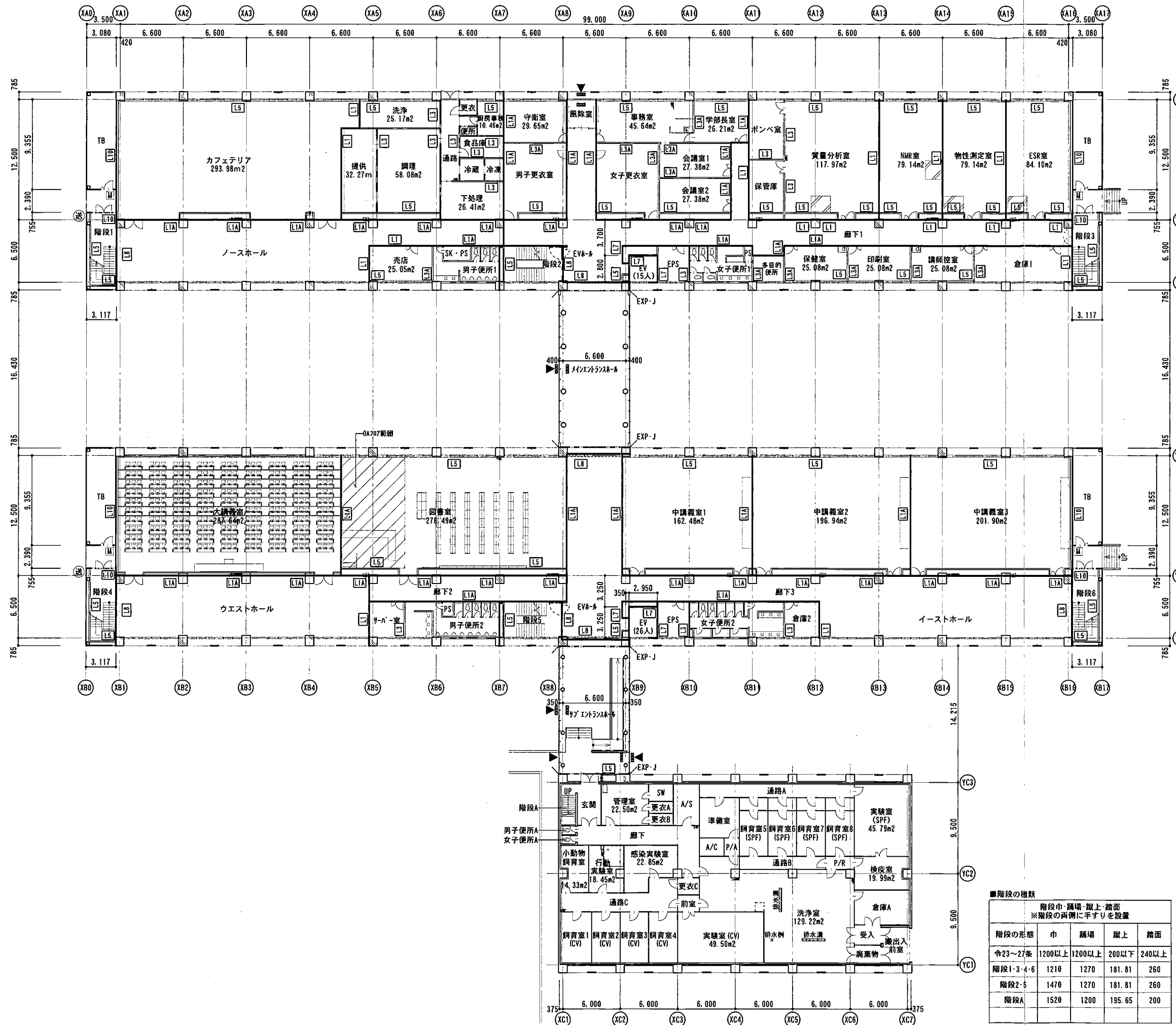
棟名	室名	内装制限	SL	FL	床仕上	巾木	巾木高	壁下地	壁仕上	天井下地	天井仕上	廻縁	天井高	備考
4階 A棟	研究室5~8	(準)	-10	±0	ビニル床シートB	床材立上	H100	LGS	EP	吊下地	直天+EP	-	-	
	測定器室5~8	(準)	-10	±0	ビニル床シートB	床材立上	H100	LGS	EP	吊下地	直天+EP	-	-	
	共同機器室2	(準)	-10	±0	ビニル床シートB	床材立上	H100	LGS	EP	吊下地	直天+EP	-	-	
	低温実験室	(準)	-10	±0	コンクリート直押え	-		LGS	-	-	直天	-	-	低温実験ユニット
	前室5		-10	±0	ビニル床シートC	ビニル巾木	H60	LGS	EP	LGS	GB-P	塩ビ	2700	
	自主研究室5~8		-50	±0	ビニル床タイル	ビニル巾木	H60	LGS	EP	LGS	DR	塩ビ	2800	OAフロア、流し台、CR
	機器2		-10	±0	ビニル床シートC	ビニル巾木	H60	LGS	EP	LGS	DR	塩ビ	2800	
	前室4		-10	±0	ビニル床シートC	ビニル巾木	H60	LGS	EP	LGS	GB-P	塩ビ	2700	
	暗室2	(準)	-10	±0	ビニル床シートB	ビニル巾木	H60	LGS	EP	LGS	GB-P	塩ビ	2700	
8棟	研究室9~12	(準)	-10	±0	ビニル床シートB	床材立上	H100	LGS	EP	吊下地	直天+EP	-	-	
	測定器室9~12	(準)	-10	±0	ビニル床シートB	床材立上	H100	LGS	EP	吊下地	直天+EP	-	-	
	自主研究室9~12		-50	±0	ビニル床タイル	ビニル巾木	H60	LGS	EP	LGS	DR	塩ビ	2800	OAフロア、流し台、CR
	ゼミ室3		-50	±0	タイルカーペットB	ビニル巾木	H60	LGS	EP	LGS	DR	塩ビ	2800	OAフロア、黒板、SB
5階 A棟	研究室13~16	(準)	-10	±0	ビニル床シートB	床材立上	H100	LGS	EP	吊下地	直天(断熱材吹付)	-	-	
	測定器室13~16	(準)	-10	±0	ビニル床シートB	床材立上	H100	LGS	EP	吊下地	直天(断熱材吹付)	-	-	
	共同機器室3	(準)	-10	±0	ビニル床シートB	床材立上	H100	LGS	EP	吊下地	直天(断熱材吹付)	-	-	
	低温実験室	(準)	-10	±0	-	-		LGS	-	-	直天(断熱材吹付)	-	-	低温実験ユニット
	前室6		-10	±0	ビニル床シートC	ビニル巾木	H60	LGS	EP	LGS	GB-P	塩ビ	2700	
	自主研究室13~16		-50	±0	ビニル床タイル	ビニル巾木	H60	LGS	EP	LGS	DR	塩ビ	2800	OAフロア、流し台、CR
	機器3		-10	±0	ビニル床シートC	ビニル巾木	H60	LGS	EP	LGS	DR	塩ビ	2800	
8棟	研究室17~19	(準)	-10	±0	ビニル床シートB	床材立上	H100	LGS	EP	吊下地	直天(断熱材吹付)	-	-	
	測定器室17~19	(準)	-10	±0	ビニル床シートB	床材立上	H100	LGS	EP	吊下地	直天(断熱材吹付)	-	-	
	ゼミ室4		-50	±0	タイルカーペットB	ビニル巾木	H60	LGS	EP	LGS	DR	塩ビ	2800	OAフロア、黒板、SB
	予備室1	(準)	-10	±0	ビニル床シートB	床材立上	H100	LGS	EP	吊下地	直天(断熱材吹付)	-	-	
	予備研究室(産官学共同)	(準)	-10	±0	ビニル床シートB	床材立上	H100	LGS	EP	吊下地	直天(断熱材吹付)	-	-	
	自主研究室17~19		-50	±0	ビニル床タイル	ビニル巾木	H60	LGS	EP	LGS	DR	塩ビ	2800	OAフロア、流し台、CR
	予備室2		-50	±0	ビニル床タイル	ビニル巾木	H60	LGS	EP	LGS	DR	塩ビ	2800	OAフロア、流し台、CR
	高圧実験室		-10	±0	ビニル床シートB	床材立上	H100	LGS	EP	LGS	GB-P	塩ビ	2700	
防塵実験室		-10	±0	ビニル床シートB	床材立上	H100	LGS	EP	LGS	GB-P	塩ビ	2700		

棟名	室名	内装制限	SL	FL	床仕上	巾木	巾木高	壁下地	壁仕上	天井下地	天井仕上	廻縁	天井高	備考	
共通	EPS		-10	±0	ビニル床シートA	ビニル巾木	H60	LGS	(木) 素地	-	直天	-	-		
	EV (15人)		-1300	-1300	浸透性塗布防水	塗上 (FL造)		LGS	EP	-	直天+EP	-	-	LGS、EV-A、77材等共SOP塗	
	EV (26人)		-1300	-1300	浸透性塗布防水	塗上 (FL造)		LGS	EP	-	直天+EP	-	-	LGS、EV-A、77材等共SOP塗	
	PS		-10	±0	コンクリート直押え	-		LGS	(木) 素地	-	直天	-	-		
	SK-PS		-10	±0	ビニル床シートA	ビニル巾木	H60	LGS	EP-G	-	直天+EP-G	-	-	SK77材	
	イ-ス-ル	(準)	-30	±0	磁器質タイルA	SUS巾木	H100	C	EP	-	直天+EP	-	-		
	ウ-ス-ル	(準)	-30	±0	磁器質タイルA	SUS巾木	H100	C	EP	-	直天+EP	-	-		
	ウ-イントランス-ル	(準)	-30	±0	磁器質タイルA	SUS巾木	H100	S	柱梁耐火塗料	LGS	DR	SUS	4000		
	ノ-ス-ル	(不)	-30	±0	磁器質タイルA	SUS巾木	H100	C	EP	-	直天+EP	-	-		
	ウ-イントランス-ル	(準)	-30	±0	磁器質タイルA	SUS巾木	H100	S	柱梁耐火塗料	LGS	DR	SUS	4000 3550		
	倉庫1~20		-10	±0	ビニル床シートA	ビニル巾木	H60	LGS	EP	-	LGS	GB-P	塩ビ	2700	
	サーバ-室		-10	±0	ビニル床シートA	ビニル巾木	H60	LGS	EP	-	LGS	GB-P	塩ビ	2700	
	多目的便所		-10	±0	ビニル床シートC	床材立上	H100	LGS	EP-G	-	LGS	DR	塩ビ	2500	
	女子便所1~10		-10	±0	ビニル床シートC	床材立上	H100	LGS	EP-G	-	LGS	DR	塩ビ	2500	
	廊下1~3 (EV-A)	(準)	-30	±0	磁器質タイルA	SUS巾木	H100	LGS	EP	-	LGS	DR	塩ビ	2800	
	廊下4~19 (EV-A)	(準)	-10	±0	ビニル床シートC	ビニル巾木	H60	LGS	EP	-	LGS	DR	塩ビ	2800	一部OAフロア
	男子便所1~10		-10	±0	ビニル床シートC	床材立上	H100	LGS	EP-G	-	LGS	DR	塩ビ	2500	汚垂列#
	階段1~6	(不)	-10	±0	ビニル床シートC	ビニル巾木	H60	LGS	EP	-	LGS	DR	塩ビ	2800	
	教授1~19		-10	±0	タイルカーペットB	ビニル巾木	H60	LGS	EP	-	LGS	DR	塩ビ	2800	
	准教1~19		-10	±0	タイルカーペットB	ビニル巾木	H60	LGS	EP	-	LGS	DR	塩ビ	2800	
渡り廊下	(準)	-10	±0	ビニル床シートC	ビニル巾木	H60	LGS	EP	-	LGS	DR	塩ビ	3500		
ビ-ト		-2150	-2150	浸透性塗布防水	塗上 (FL造)	-	C	打放し (C種) 補修	C	打放し (C種) 補修				居室下部は断熱材打込t25	



■凡例
 ・【 数値 】は建物F.Lを示す
 ・〈 数値 〉は外構計画高を示す
 ・ 数値 は外構現況高を示す

特 記 事項	株式会社あい設計 一級建築士事務所 山口県知事登録(A)第2768号 管理建築士 一級建築士 第344252号 市川 大輔 建築 一級建築士 第344252号 市川 大輔	JOB. NO	DATE	TITLE	DWG. NO
		201500141	2016	山口東京理科大学薬学部増築工事	× A
		APPD.	CHKD.	DWN.	SCALE
		金崎	市川	河原	1/800
				配置図	05

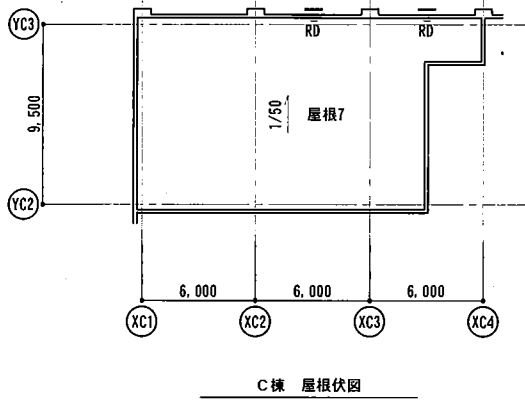
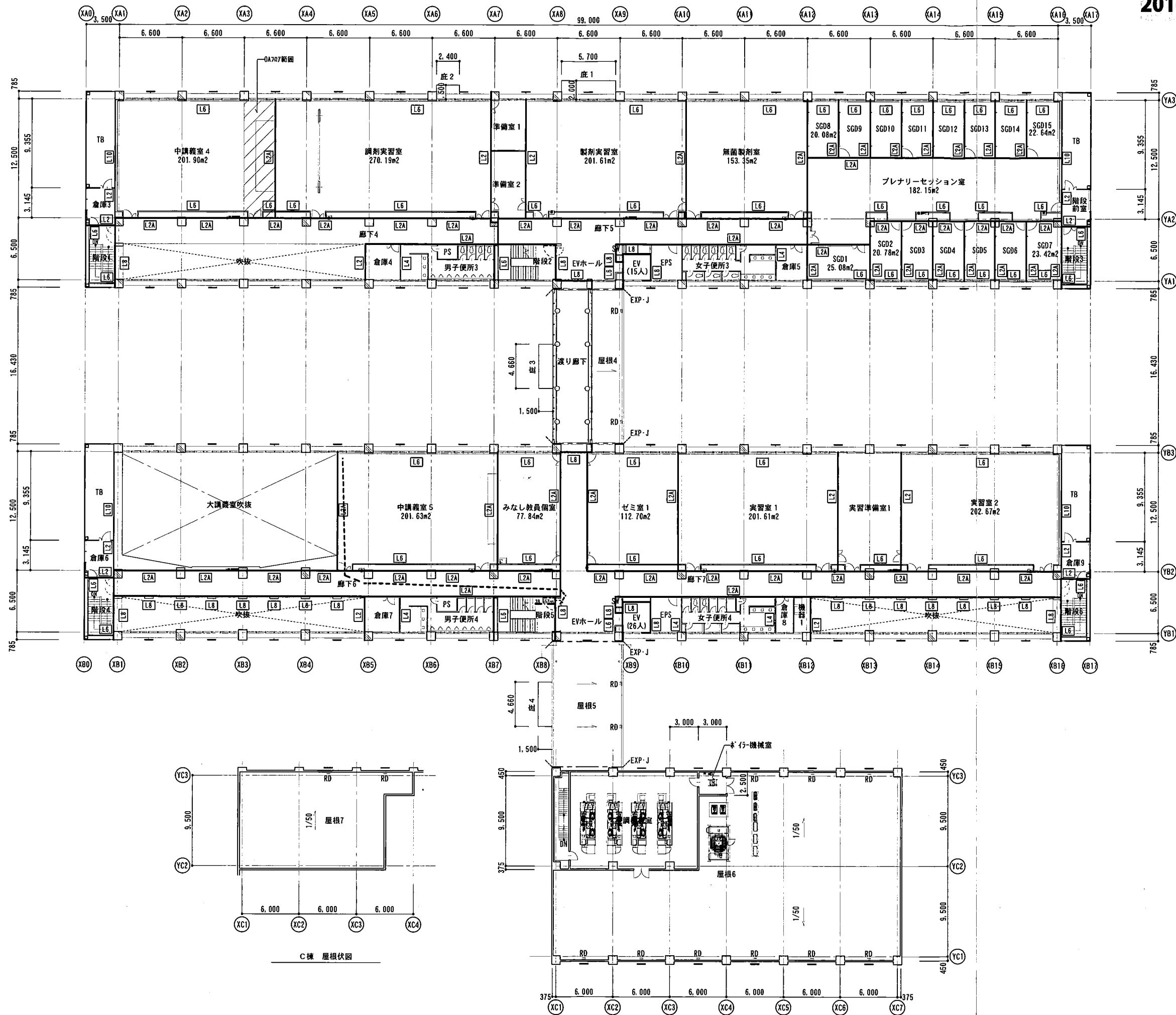
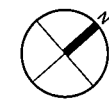


■凡例 ※消火器は別途備品調達

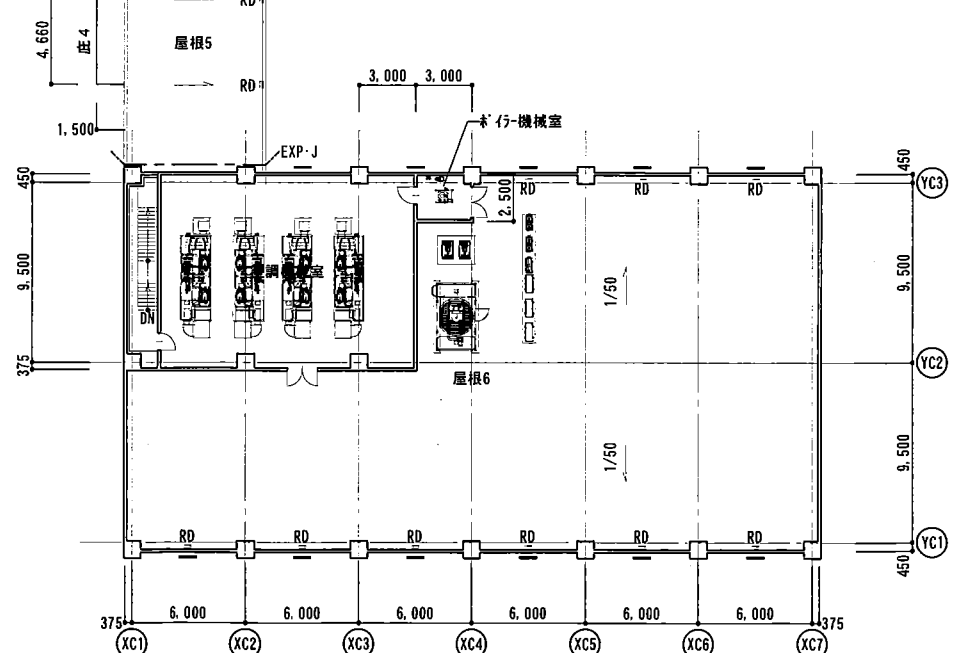
図中表記	意味	詳細番号
▲	主要出入口	
■	消火栓ボックス	
■	消火栓ボックス・消火器 一体型	
■	消火器 床置/壁埋込	
■	送水口 / 連結送水口	
■	機械基礎	
■	機械基礎	
↑	←上段: 床仕上げ	
↓	←下段: 床仕上げ	
■	特記無きは ±0 とする。	
■	床下点検口	
RD DP	ホードレイン/ドレンパイプ	
OF	オナーフ	
S.B-	防煙垂壁	
■	ユナガード	
■	点字ブロック (誘導/警告)	
■	防火区画	
■	壁穴区画	
■	114条区画	

■階段の種類

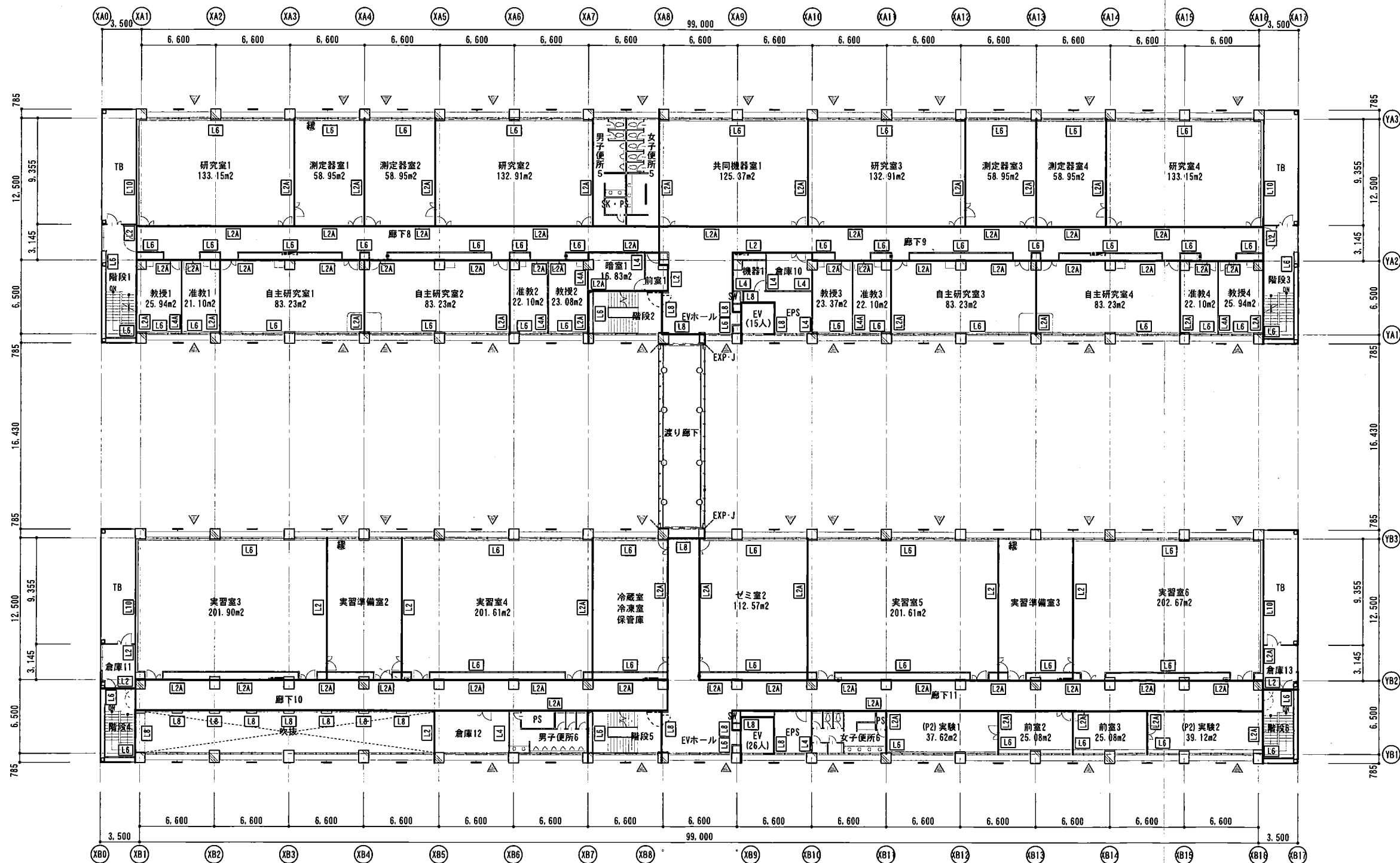
階段の形態	巾	踊場	蹴上	踏面
令23~27条	1200以上	1200以上	200以下	240以上
階段1-3-4-6	1210	1270	181.81	260
階段2-5	1470	1270	181.81	260
階段A	1520	1200	195.65	200



C棟 屋根伏図



特記事項	株式会社あい設計 一級建築士事務所 山口県知事登録(甲)第2768号 管理建築士 一級建築士 第344252号 市川 大輔 建築 一級建築士 第344252号 市川 大輔	JOB. NO	DATE	TITLE	DWG. NO
		201500141	2016	山口東京理科大学薬学部増築工事	
		APPD.	CHKD.	DWN.	SCALE
		金崎	市川	河原	1/200
					A 10



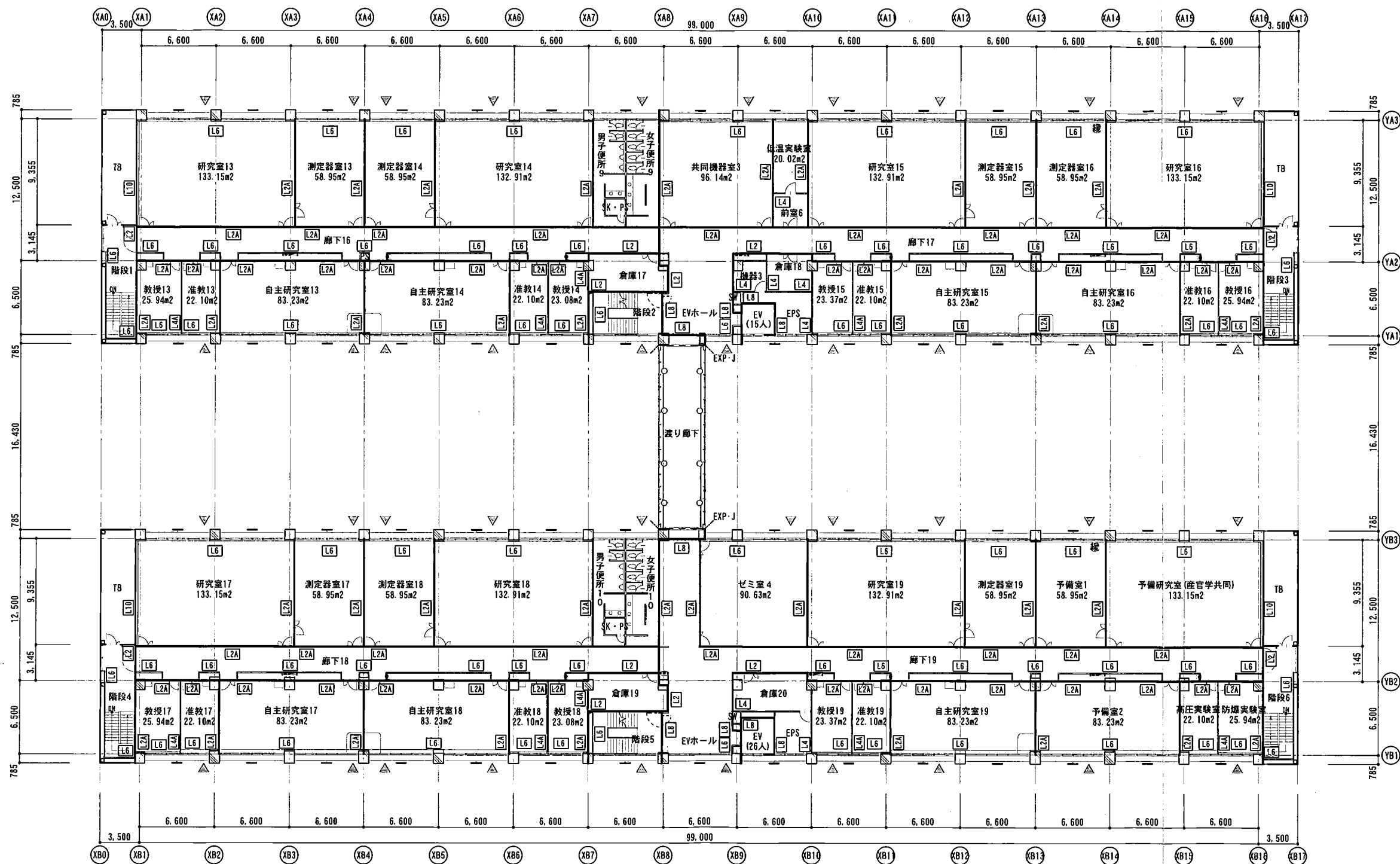
■凡例		
図中表記	意味	詳細番号
▲	代替進入口	

設計者 監理者 確認者	あいち設計 株式会社あいち設計 一級建築士事務所 山口県知事登録(A)第2768号 管理棟 第344252号 市川 大輔 建築 一級建築士 第344252号 市川 大輔	JOB. NO. 201500141	DATE 2016	TITLE 山口東京理科大学薬学部増築工事	DWG. NO. A 11
		APPD. 金崎	CHKD. 市川	DWN. 河原	



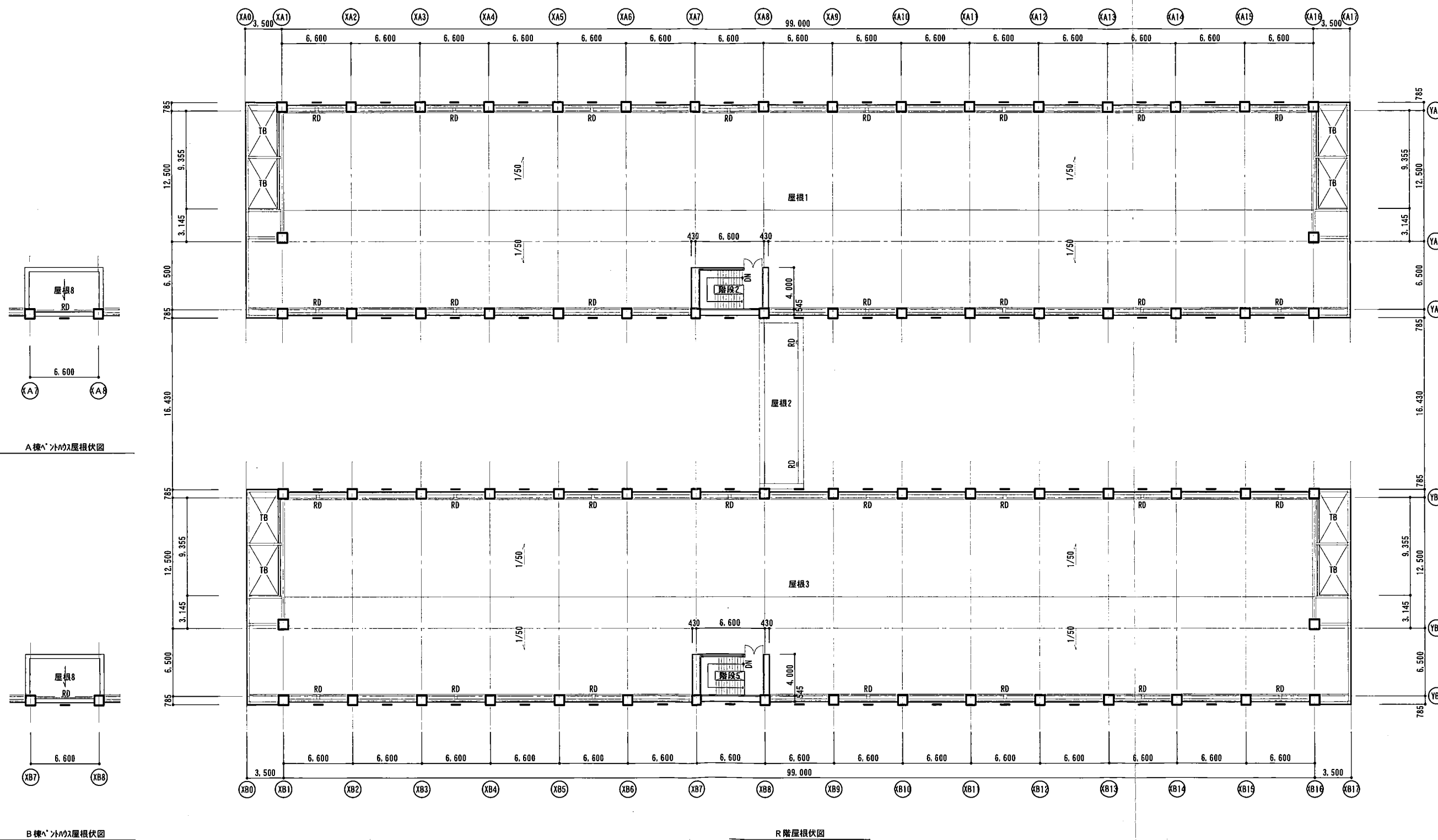
■凡例		
図中表記	意味	詳細番号
▲	代替出入口	

特記事項 備考	株式会社あい設計 一級建築士事務所 山口県知事登録 (A) 第2768号 管理棟第1号 第344252号 市川 大輔 建築 一級建築士 第344252号 市川 大輔	JOB. NO 201500141	DATE 2016	TITLE 山口東京理科大学薬学部増築工事	DWG. NO A
		APPD. 金崎	CHKD. 市川	OWN. 河原	4階平面図



■凡例		
図中表記	意味	詳細番号
△	代替進入口	

特記事項 備考	株式会社あいち設計 一級建築士事務所 山口県知事登録(A)第2788号 管理建築士 一級建築士 第344252号 市川 大輔 建築 一級建築士 第344252号 市川 大輔	JOB. NO 201500141	DATE 2016	TITLE 山口東京理科大学薬学部増築工事	DWG. NO A 13
		APPD. 金崎	CHKD. 市川	DWN. 河原	5階平面図

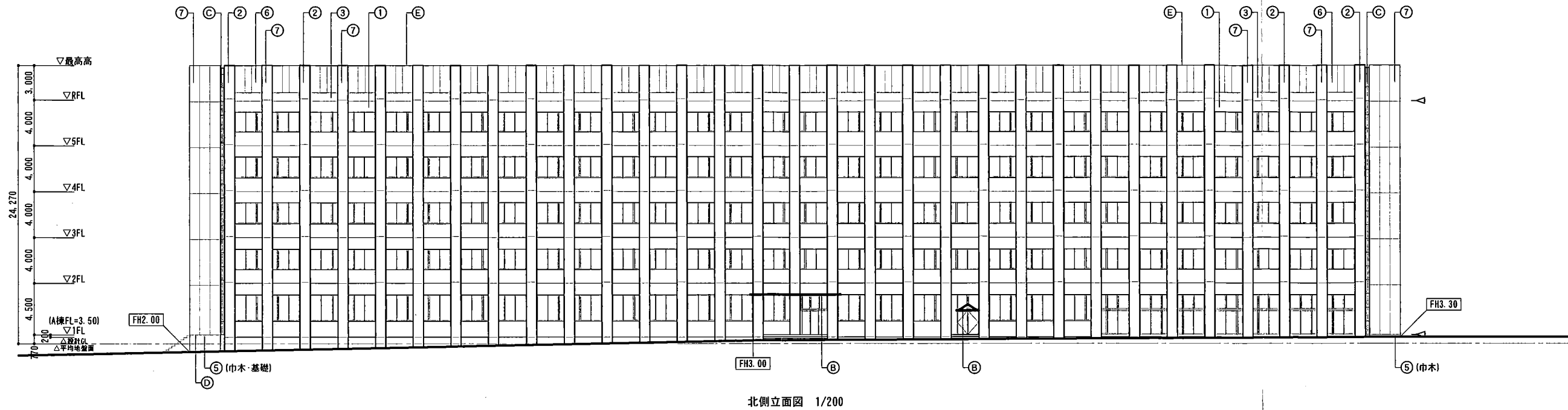


A棟A'外の屋根伏図

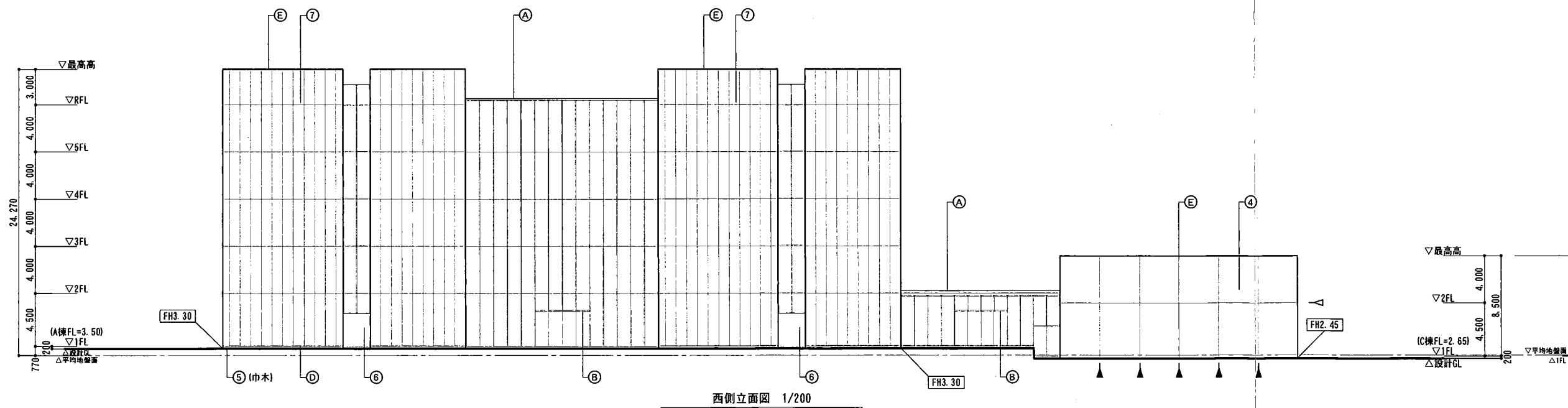
B棟A'外の屋根伏図

R階屋根伏図

特記事項 棟名	株式会社あい設計 一級建築士事務所 山口県知事登録(第2768号)		JOB. NO 201500141	DATE 2016	TITLE 山口東京理科大学薬学部増築工事	DWG. NO A 14
	管理建築士 一級建築士 第344252号 市川 大輔		APPD. 金崎	CHKO. 市川	OWN. 河原	



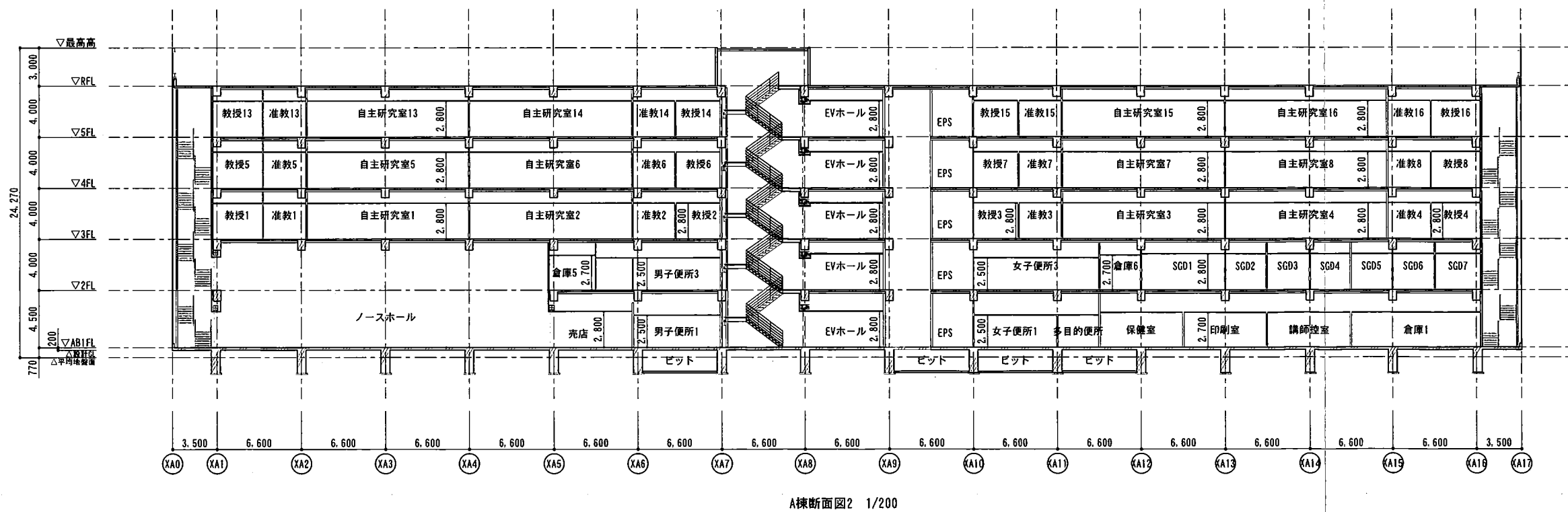
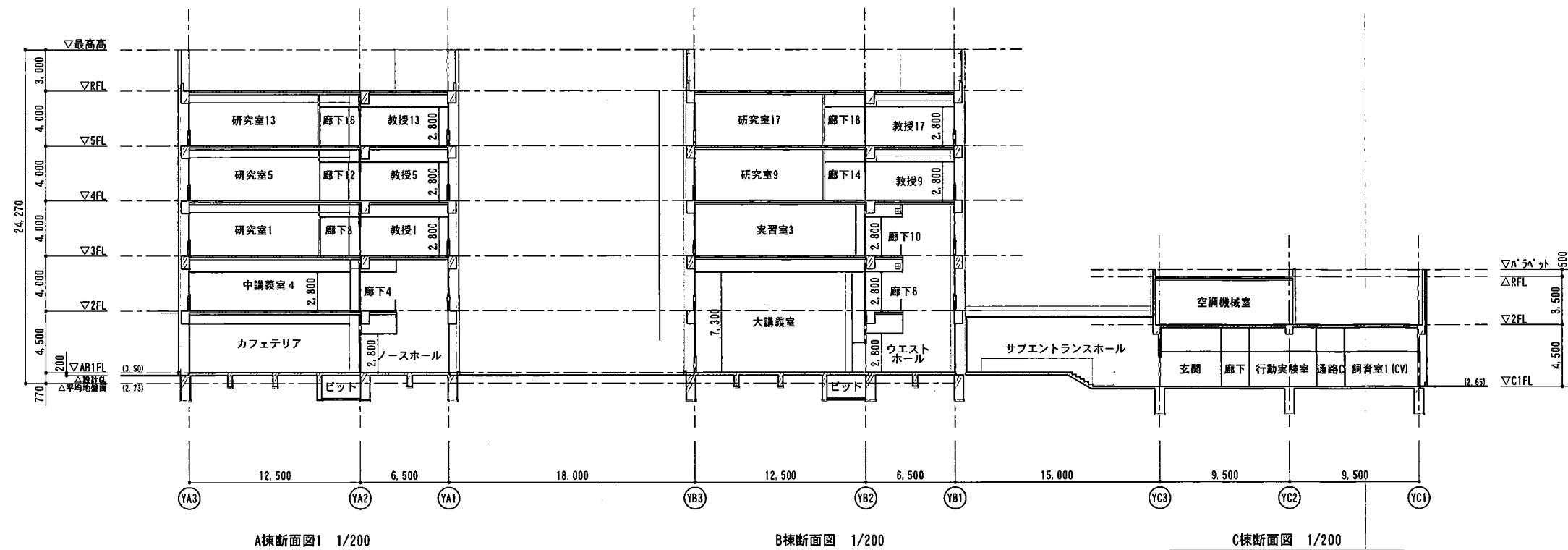
北側立面図 1/200



西側立面図 1/200

■ 仕上等凡例

記号	仕上	記号	仕上	記号	仕上	記号	仕上
①	PCa+外装薄塗材E	⑤	コンクリート打放し(B種)補修+トップコート吹付	A	7A2笠木	E	笠木水切
②	PCa+外装仕上塗材	⑥	ECP+外装薄塗材E	B	7A2ニハ底(指定色焼付)	F	
③	コンクリート打放し(B種)補修+外装薄塗材E	⑦	ECP+外装仕上塗材	C	スチール製引列(指定色焼付)	G	▽ 打錠目地
④	コンクリート打放し(B種)補修+外装仕上塗材	⑧	ガラス扉のガラス板水切り0.4	D	ガラス扉のガラス板水切り0.4	H	▶ 誘発目地

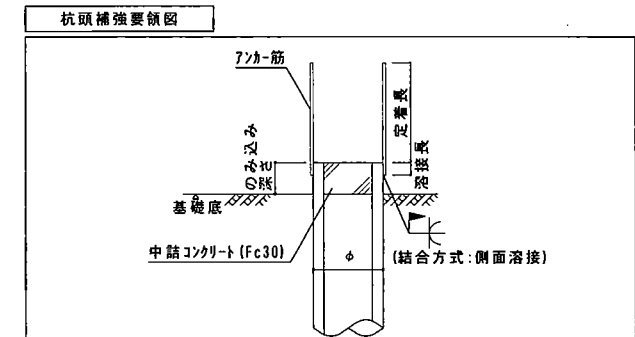
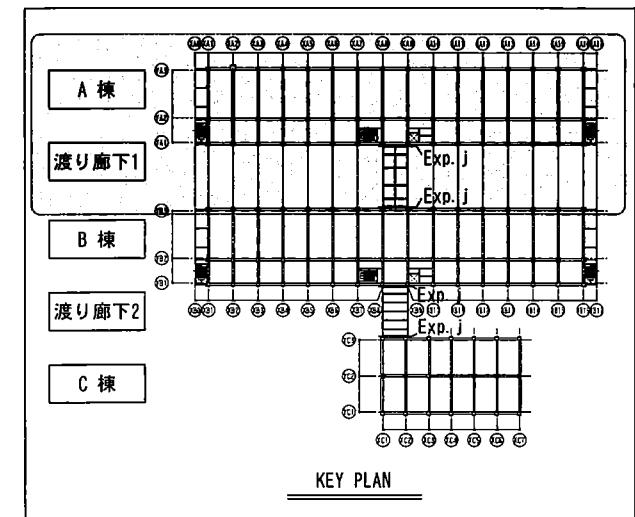
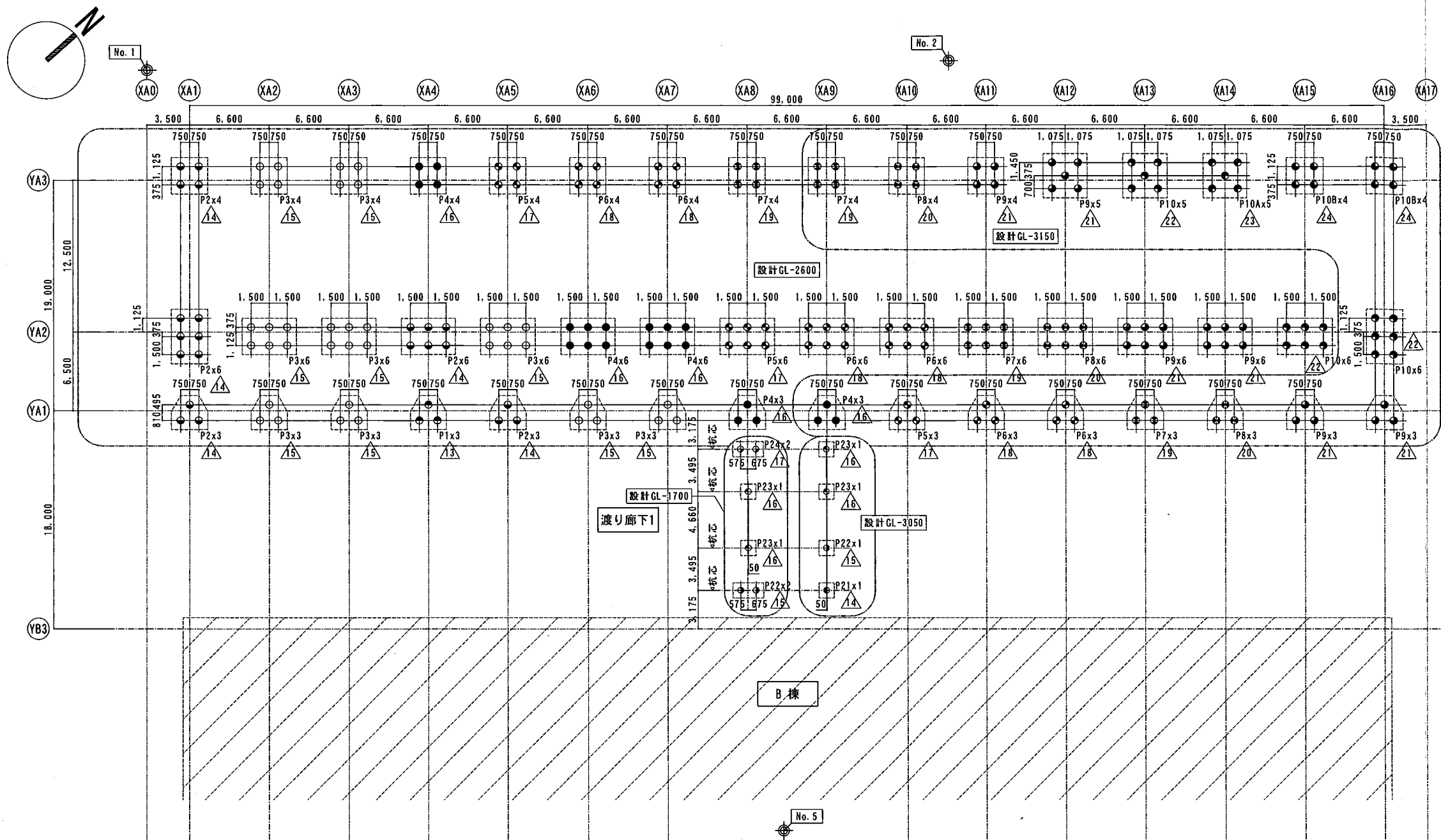


※道路斜線は、道路境界線から充分な距離があるので検討省略
 ※隣地斜線は、明らかに適合しているので検討省略

あい設計 株式会社あい設計 一級建築士事務所
 山口県知事登録 (A) 第2768号
 管理建築士 一級建築士 第344252号 市川 大輔
 建築 一級建築士 第344252号 市川 大輔

JOB. NO.	201500141	DATE	2016. 7	TITLE	山口東京理科大学薬学部増築工事
APPD.	金崎	CHKD.	市川	OWN.	河原

SCALE	1/200
DWG. NO.	A 17



棟名	杭符号	杭径	のみ込み 深さ	杭 / 1本 必要鉄筋本数	定着長	溶接長	溶接 脚長
A棟	P1~P10B	φ600	300	14-D32 (SD390)	1300	200	9
渡り廊下	P21~P24	φ500	300	10-D32 (SD390)	1300	200	9

杭伏図 1:200

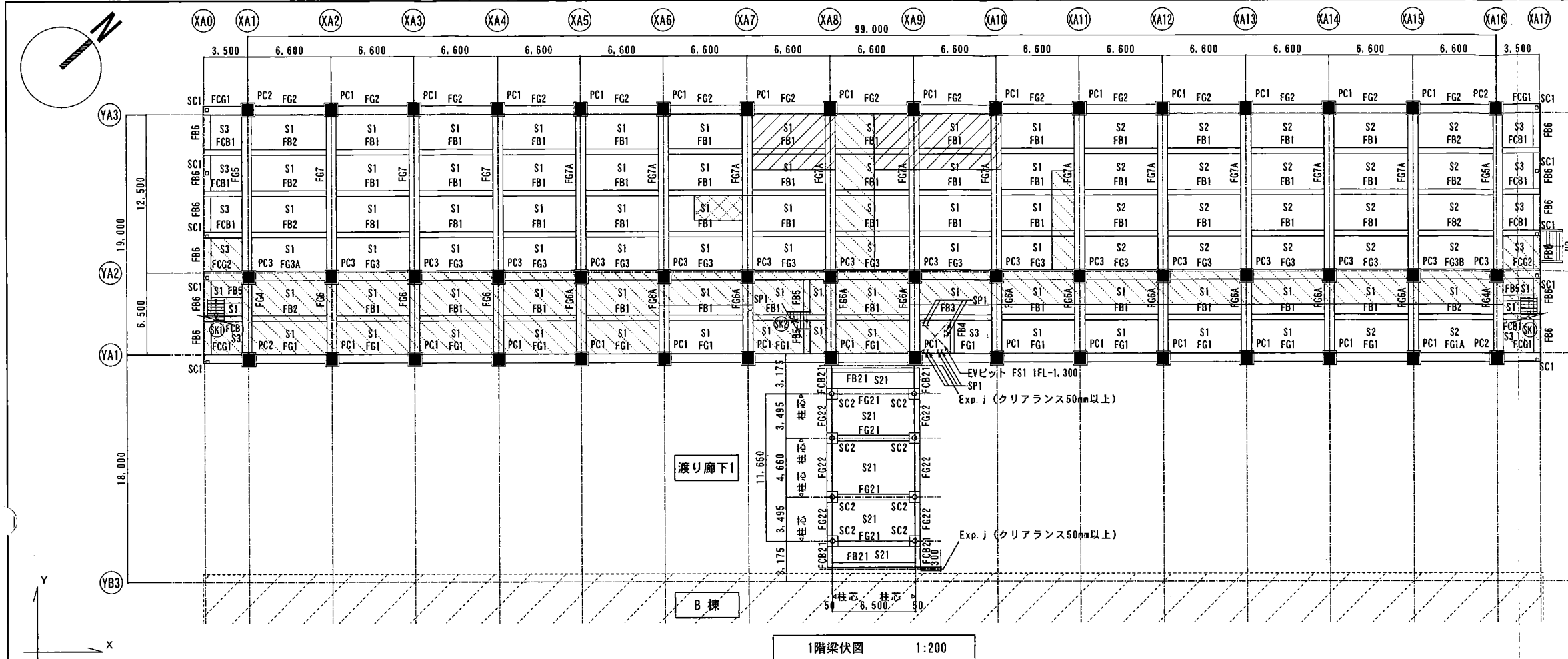
- 特記なき限り下記に依る
- 1 杭先端位置は、設計GL-2600とする
 - 2 内数値は、設計GLからの杭先端位置を示す
 - 3 杭芯に施工誤差が生じた場合は、速やかに監理者に報告し、補強の有無を確認する事
 - 4 ◉ は、ボーリング位置を示す
 - 5 △ 内の数値は、杭長を示す

杭リスト 施工法: Hyper-MEGA工法

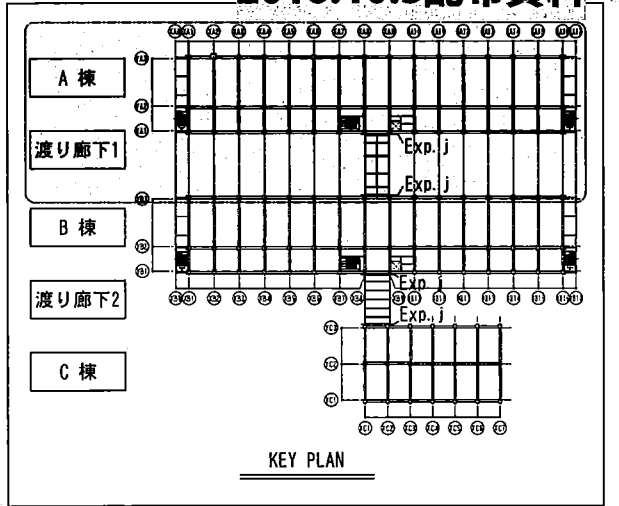
棟名	符号	記号	全長	上杭		中杭		下杭		拡大 掘削率	杭耐力	杭本数	合計
				杭径・仕様	長さ	杭径・仕様	長さ	杭径・仕様	長さ				
A棟	P1	●	13.0m	φ600 HiSC105 (SKK490 t=9.0mm)	5.0m	φ600-450-600 JP-NPRC 105 (Ⅲ種)	—	φ600-450-600 PRC部6.0m +PHC部2.0m	1.00	1400 KN/本	3	211	
	P2	●	14.0m	φ600 HiSC105 (SKK490 t=9.0mm)	5.0m	φ600-450-600 JP-NPRC 105 (Ⅲ種)	—	φ600-450-600 PRC部6.0m +PHC部3.0m	1.00	1400 KN/本	22		
	P3	●	15.0m	φ600 HiSC105 (SKK490 t=9.0mm)	5.0m	φ600-450-600 JP-NPRC 105 (Ⅲ種)	—	φ600-450-600 PRC部6.0m +PHC部4.0m	1.00	1400 KN/本	38		
	P4	●	16.0m	φ600 HiSC105 (SKK490 t=9.0mm)	5.0m	φ600-450-600 JP-NPRC 105 (Ⅲ種)	—	φ600-450-600 PRC部6.0m +PHC部5.0m	1.00	1400 KN/本	22		
	P5	●	17.0m	φ600 HiSC105 (SKK490 t=9.0mm)	5.0m	φ600-450-600 JP-NPRC 105 (Ⅲ種)	—	φ600-450-600 PRC部6.0m +PHC部3.0m	1.00	1400 KN/本	13		
	P6	●	18.0m	φ600 HiSC105 (SKK490 t=9.0mm)	5.0m	φ600-450-600 JP-NPRC 105 (Ⅲ種)	—	φ600-450-600 PRC部6.0m +PHC部3.0m	1.00	1400 KN/本	26		
	P7	●	19.0m	φ600 HiSC105 (SKK490 t=9.0mm)	5.0m	φ600-450-600 JP-NPRC 105 (Ⅲ種)	—	φ600-450-600 PRC部6.0m +PHC部3.0m	1.00	1400 KN/本	17		
	P8	●	20.0m	φ600 HiSC105 (SKK490 t=9.0mm)	5.0m	φ600-450-600 JP-NPRC 105 (Ⅲ種)	—	φ600-450-600 PRC部6.0m +PHC部3.0m	1.00	1400 KN/本	13		
	P9	●	21.0m	φ600 HiSC105 (SKK490 t=9.0mm)	5.0m	φ600-450-600 JP-NPRC 105 (Ⅲ種)	—	φ600-450-600 PRC部6.0m +PHC部3.0m	1.00	1400 KN/本	27		
	P10	●	22.0m	φ600 HiSC105 (SKK490 t=9.0mm)	5.0m	φ600-450-600 JP-NPRC 105 (Ⅲ種)	—	φ600-450-600 PRC部6.0m +PHC部3.0m	1.00	1400 KN/本	17		
P10A	●	23.0m	φ600 HiSC105 (SKK490 t=9.0mm)	5.0m	φ600-450-600 JP-NPRC 105 (Ⅲ種)	—	φ600-450-600 PRC部6.0m +PHC部3.0m	1.00	1400 KN/本	5			
P10B	●	24.0m	φ600 HiSC105 (SKK490 t=9.0mm)	5.0m	φ600-450-600 JP-NPRC 105 (Ⅲ種)	—	φ600-450-600 PRC部6.0m +PHC部3.0m	1.00	1400 KN/本	8			

棟名	符号	記号	全長	上杭		中杭		下杭		拡大 掘削率	杭耐力	杭本数	合計
				杭径・仕様	長さ	杭径・仕様	長さ	杭径・仕様	長さ				
渡り廊下1	P21	●	14.0m	φ500 HiSC 85 (SKK490 t=9.0mm)	5.0m	—	—	φ500-400-500 JP-NPH 85 (C種)	9.0m	1.00	950 KN/本	1	10
	P22	●	15.0m	φ500 HiSC 85 (SKK490 t=9.0mm)	5.0m	—	—	φ500-400-500 JP-NPH 85 (C種)	10.0m	1.00	950 KN/本	3	
	P23	●	16.0m	φ500 HiSC 85 (SKK490 t=9.0mm)	5.0m	—	—	φ500-400-500 JP-NPH 85 (C種)	11.0m	1.00	950 KN/本	4	
	P24	●	17.0m	φ500 HiSC 85 (SKK490 t=9.0mm)	5.0m	—	—	φ500-400-500 JP-NPH 85 (C種)	12.0m	1.00	950 KN/本	2	

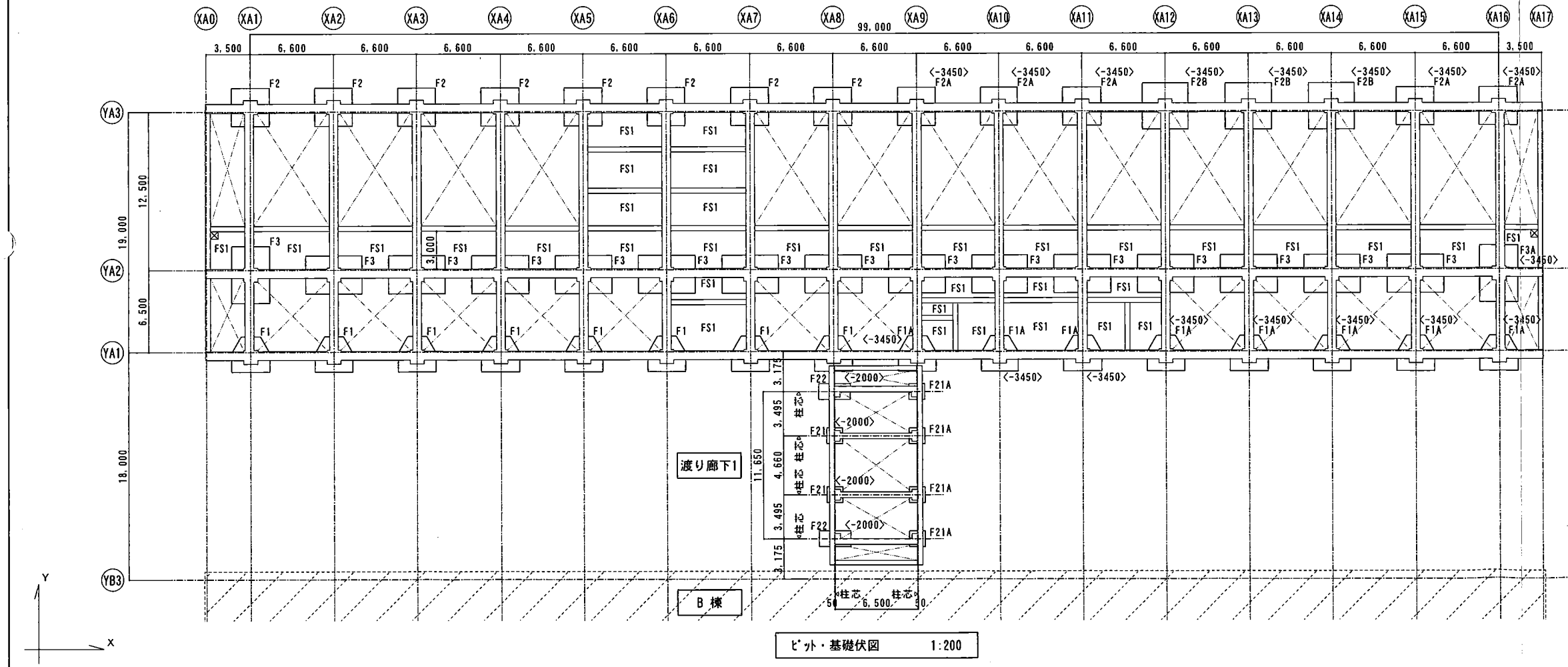
構造設計者			
一級建築士	第274538号	日浦 治彦	
構造設計一級建築士	第2858号		



1階梁伏図 1:200



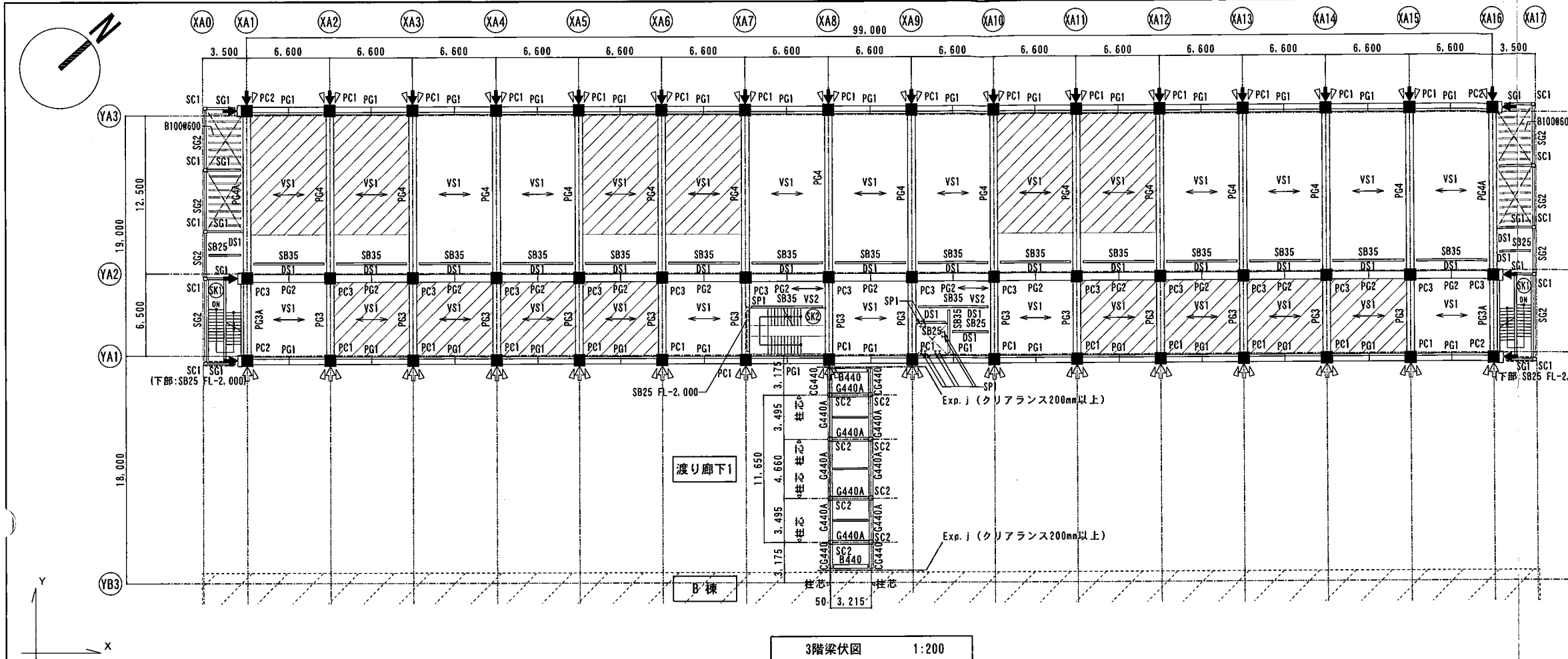
- <A棟>**
 特記なき限り下記に依る
 1 基礎梁天端は、設計GL±0 (IFL-200)とする
 2 ()内は、設計GLからの基礎梁天端印を示す
 3 スラブ天端印は、設計GL+190 (IFL-10)とする
 4 斜線印は、スラブ天端印は、設計GL+150 (IFL-50)とする
 5 点線印は、スラブ天端印は、設計GL+170 (IFL-30)とする
 6 網線印は、スラブ天端印は、設計GL-50 (IFL-250)とする
- <渡り廊下1>**
 特記なき限り下記に依る
 1 基礎梁天端は、設計GL-100とする
 2 ()内は、設計GLからの基礎梁天端印を示す
 3 スラブ天端印は、設計GL+170とする



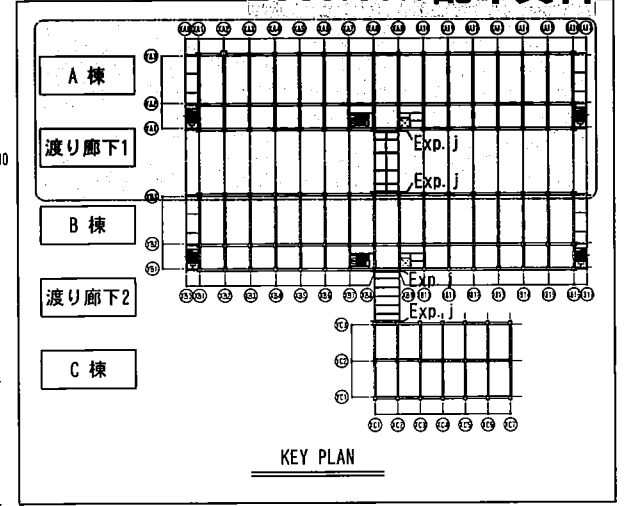
ピット・基礎伏図 1:200

- <A棟>**
 特記なき限り下記に依る
 1 基礎下端は、設計GL-2900とする
 2 ()内は、設計GLからの基礎下端印を示す
 3 スラブ天端印は、設計GL-1950とする
 4 印は、埋戻し範囲を示す
 5 印は、差場を示す
 6 ビット部分の小梁下部はビットの底盤まで増打とする
- <渡り廊下1>**
 特記なき限り下記に依る
 1 基礎下端は、設計GL-3350とする
 2 ()内は、設計GLからの基礎下端印を示す
 3 印は、埋戻し範囲を示す

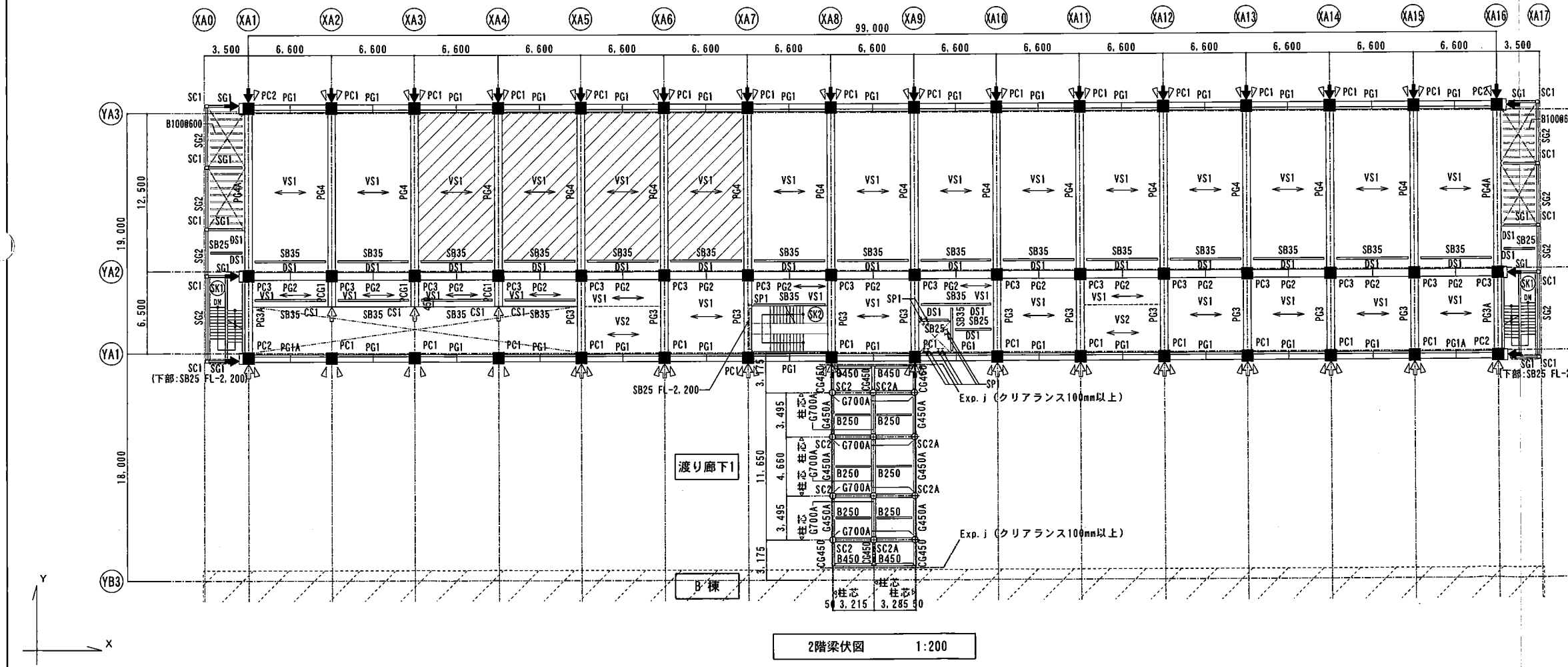
構造設計者	
一級建築士 第274538号	日浦 治彦
構造設計一級建築士 第 2858号	



3階梁伏図 1:200



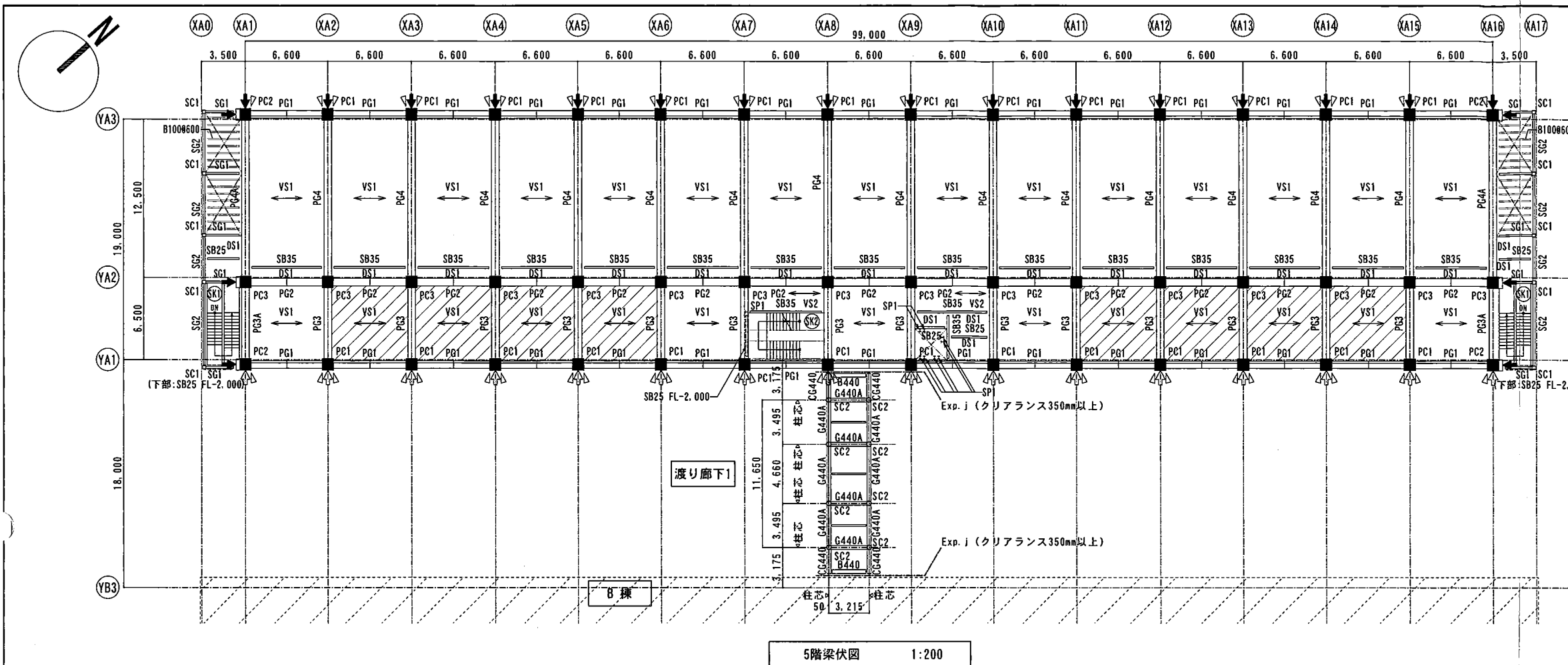
- <A棟>**
特記なき限り下記に依る
- 1 梁天端は、3FL-10とする
 - 2 鉄骨梁天端は、3FL-160とする
 - 3 ｽﾗﾌﾞ天端ﾊﾞﾙｸは、3FL-10とする
 - 4 ｽﾗﾌﾞ天端ﾊﾞﾙｸは、3FL-50とする
 - 5 印は、PCケーブル緊張端を示す
 - 6 印は、PCケーブル固定端を示す
 - 7 印は、PCa床版敷設方向を示す
 - 8 印は、スラブ開口を示す
 - 9 印は、構造スリットを示す
- <渡り廊下1>**
特記なき限り下記に依る
- 1 鉄骨の継手はノンブラケット工法を採用する
 - 2 梁天端は、3FL-140とする
 - 3 ｽﾗﾌﾞ符号は DS21 とし、ｽﾗﾌﾞ天端は3FL-10とする
 - 4 小梁符号は B250 とする
 - 5 寸法記入がない小梁はｽﾊﾟﾝ均等配置とする



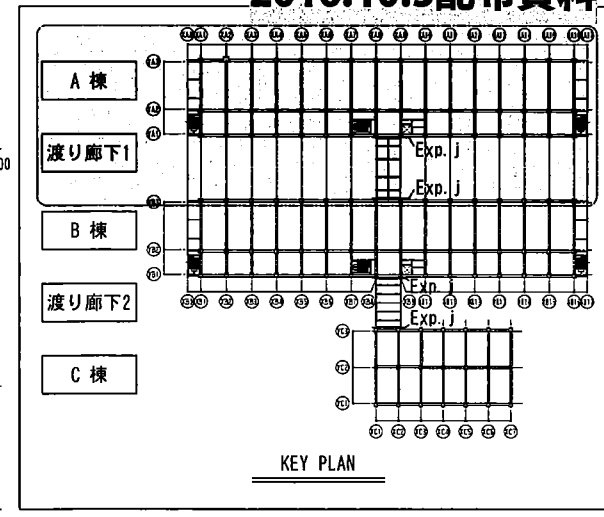
2階梁伏図 1:200

- <A棟>**
特記なき限り下記に依る
- 1 梁天端は、2FL-10とする
 - 2 鉄骨梁天端は、2FL-160とする
 - 3 ｽﾗﾌﾞ天端ﾊﾞﾙｸは、2FL-10とする
 - 4 ｽﾗﾌﾞ天端ﾊﾞﾙｸは、2FL-50とする
 - 5 印は、PCケーブル緊張端を示す
 - 6 印は、PCケーブル固定端を示す
 - 7 印は、PCa床版敷設方向を示す
 - 8 印は、スラブ開口を示す
 - 9 印は、構造スリットを示す
- <渡り廊下1>**
特記なき限り下記に依る
- 1 鉄骨の継手はノンブラケット工法を採用する
 - 2 梁天端は、2FL-140とする
 - 3 ｽﾗﾌﾞ符号は DS21 とし、ｽﾗﾌﾞ天端は2FL-10とする
 - 4 小梁符号は B250 とする
 - 5 寸法記入がない小梁はｽﾊﾟﾝ均等配置とする

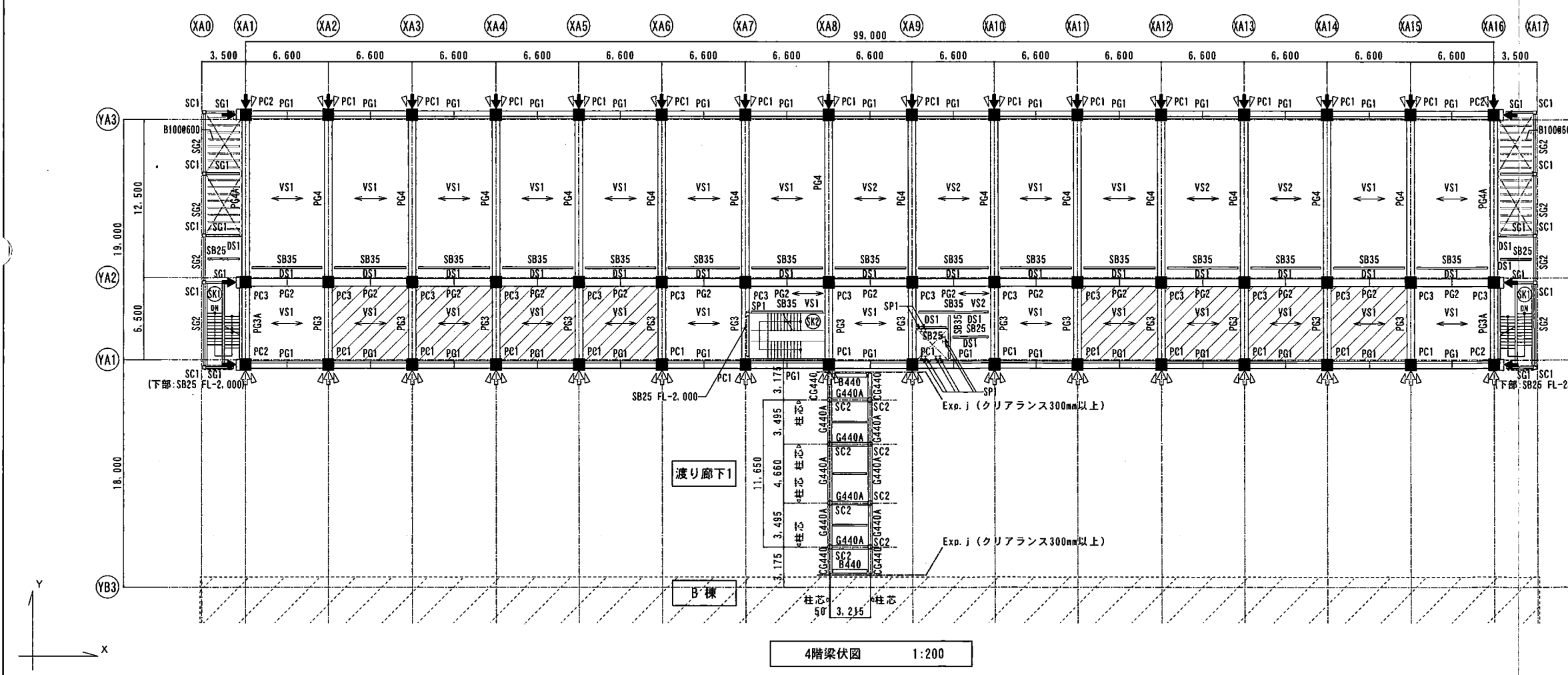
構造設計者	
一級建築士 第274538号	日浦 治彦
構造設計一級建築士 第2858号	



5階梁伏図 1:200



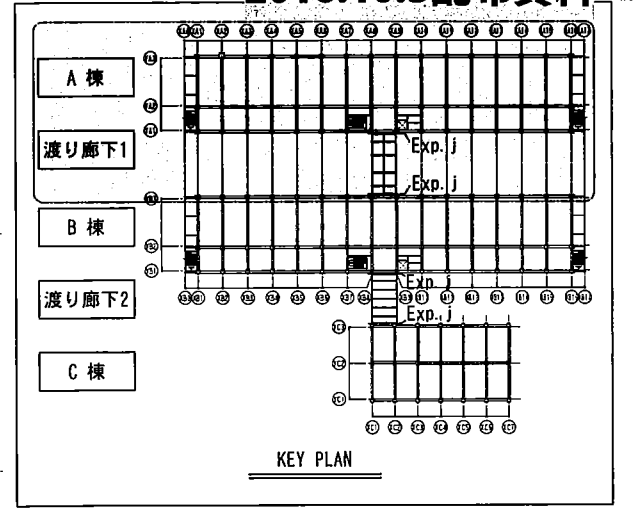
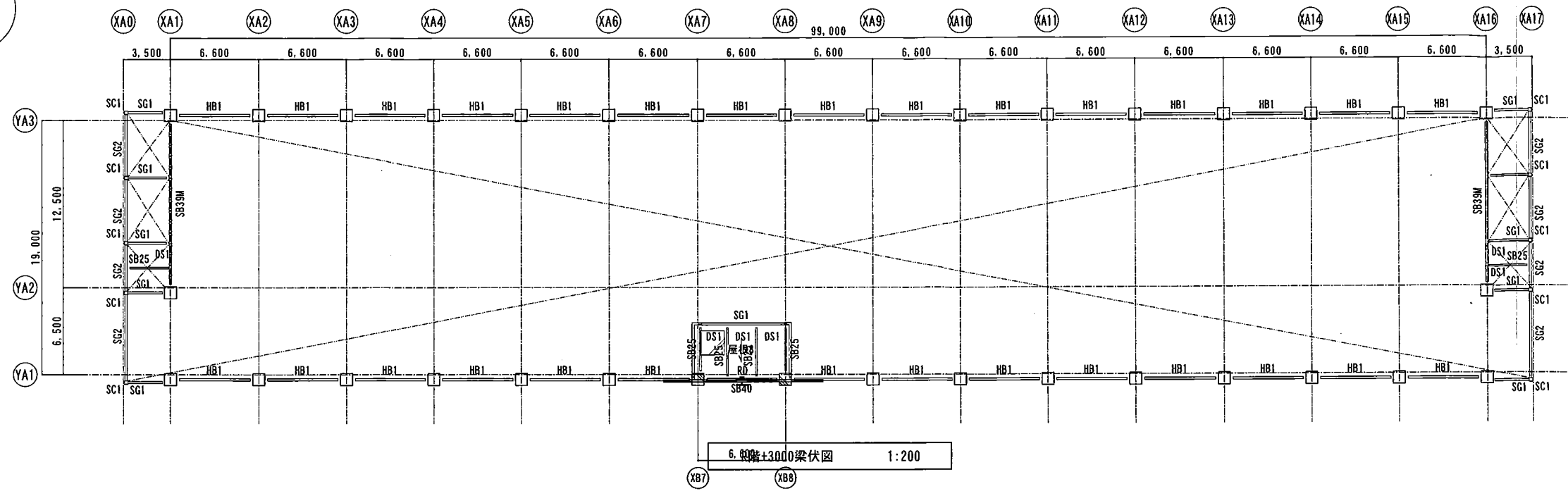
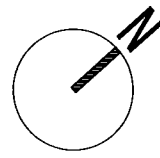
- <A棟>**
特記なき限り下記に依る
- 1 梁天端は、5FL-10とする
 - 2 鉄骨梁天端は、5FL-160とする
 - 3 ｽﾌﾟﾗ天端ﾊﾞﾙｸは、5FL-10とする
 - 4 ｽﾌﾟﾗ天端ﾊﾞﾙｸは、5FL-50とする
 - 5 印は、PCケーブル緊張端を示す
 - 6 印は、PCケーブル固定端を示す
 - 7 印は、PC床版敷設方向を示す
 - 8 印は、スラブ開口を示す
 - 9 印は、構造スリットを示す
- <渡り廊下1>**
特記なき限り下記に依る
- 1 鉄骨の継手はノンブラケット工法を採用する
 - 2 梁天端は、5FL-140とする
 - 3 ｽﾌﾟﾗ符号は DS21 とし、ｽﾌﾟﾗ天端は5FL-10とする
 - 4 小梁符号は B250 とする
 - 5 寸法記入がない小梁はｽﾊﾟﾝ均等配置とする



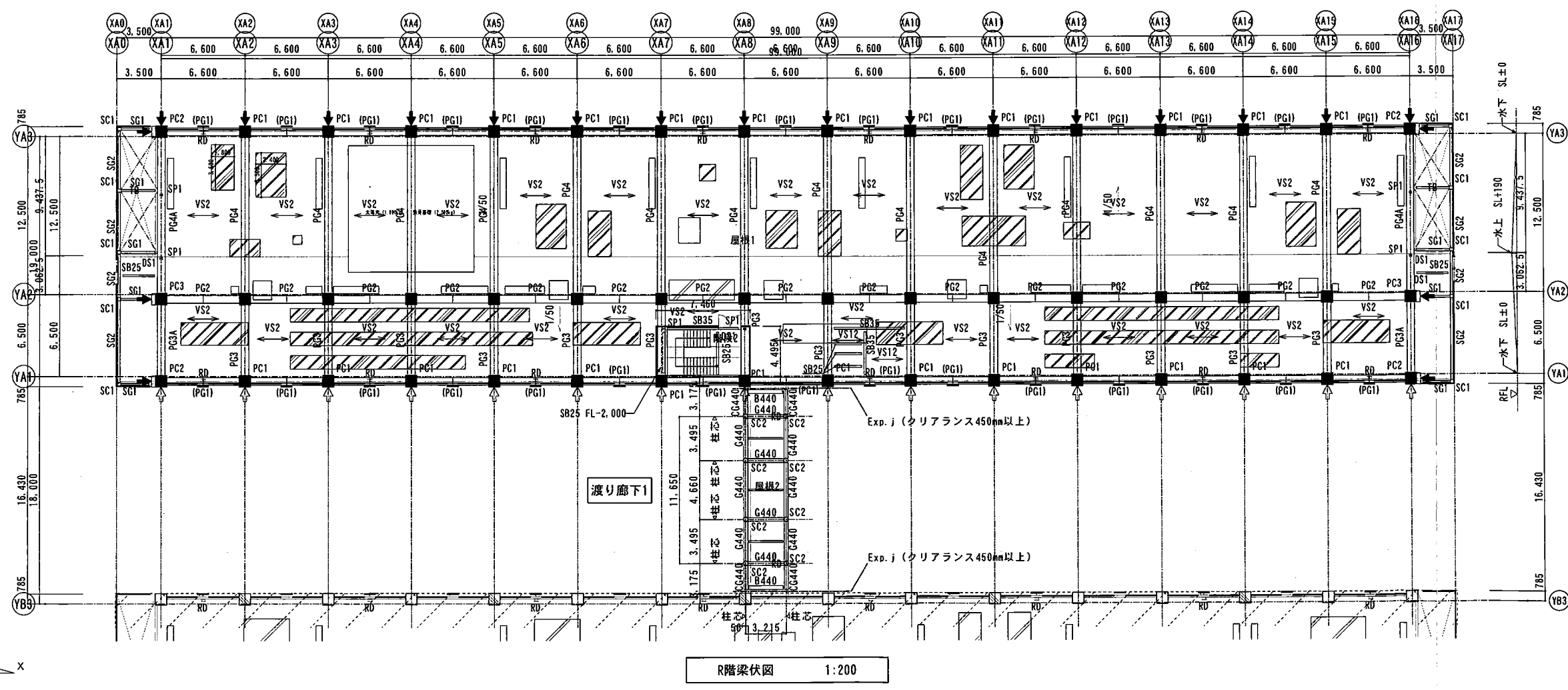
4階梁伏図 1:200

- <A棟>**
特記なき限り下記に依る
- 1 梁天端は、4FL-10とする
 - 2 鉄骨梁天端は、4FL-160とする
 - 3 ｽﾌﾟﾗ天端ﾊﾞﾙｸは、4FL-10とする
 - 4 ｽﾌﾟﾗ天端ﾊﾞﾙｸは、4FL-50とする
 - 5 印は、PCケーブル緊張端を示す
 - 6 印は、PCケーブル固定端を示す
 - 7 印は、PC床版敷設方向を示す
 - 8 印は、スラブ開口を示す
 - 9 印は、構造スリットを示す
- <渡り廊下1>**
特記なき限り下記に依る
- 1 鉄骨の継手はノンブラケット工法を採用する
 - 2 梁天端は、4FL-140とする
 - 3 ｽﾌﾟﾗ符号は DS21 とし、ｽﾌﾟﾗ天端は4FL-10とする
 - 4 小梁符号は B250 とする
 - 5 寸法記入がない小梁はｽﾊﾟﾝ均等配置とする

構造設計者	
一級建築士 第274538号	日浦 治彦
構造設計一級建築士 第 2858号	



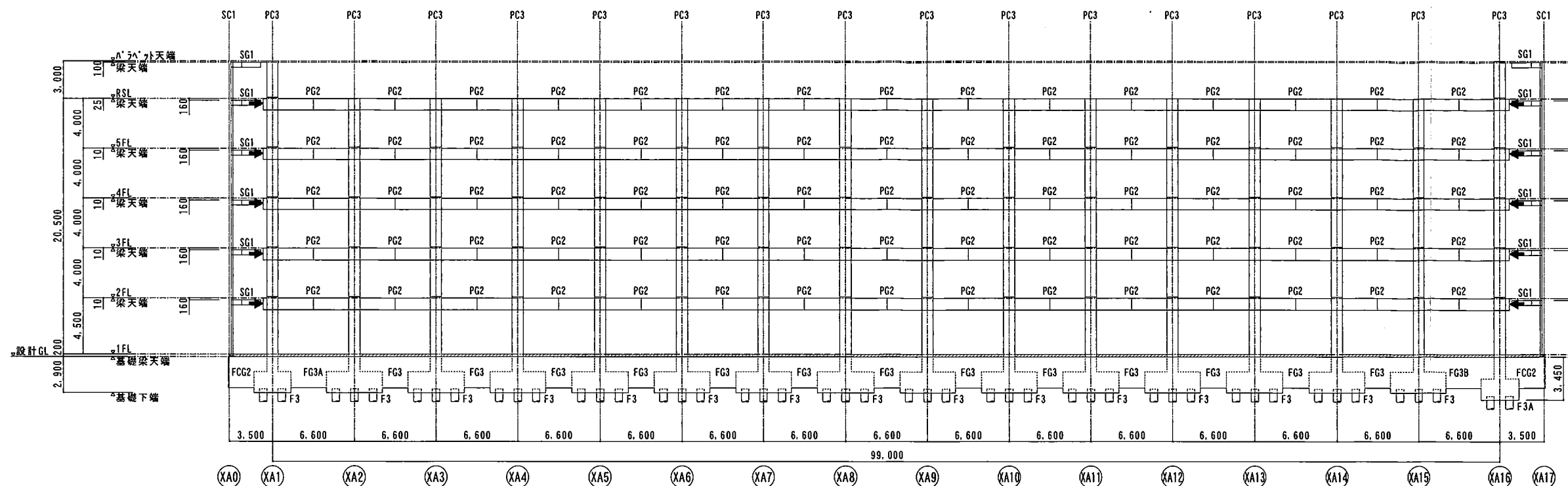
<A棟>
特記なき限り下記に依る
1 鉄骨梁天端は、RFL+2900とする



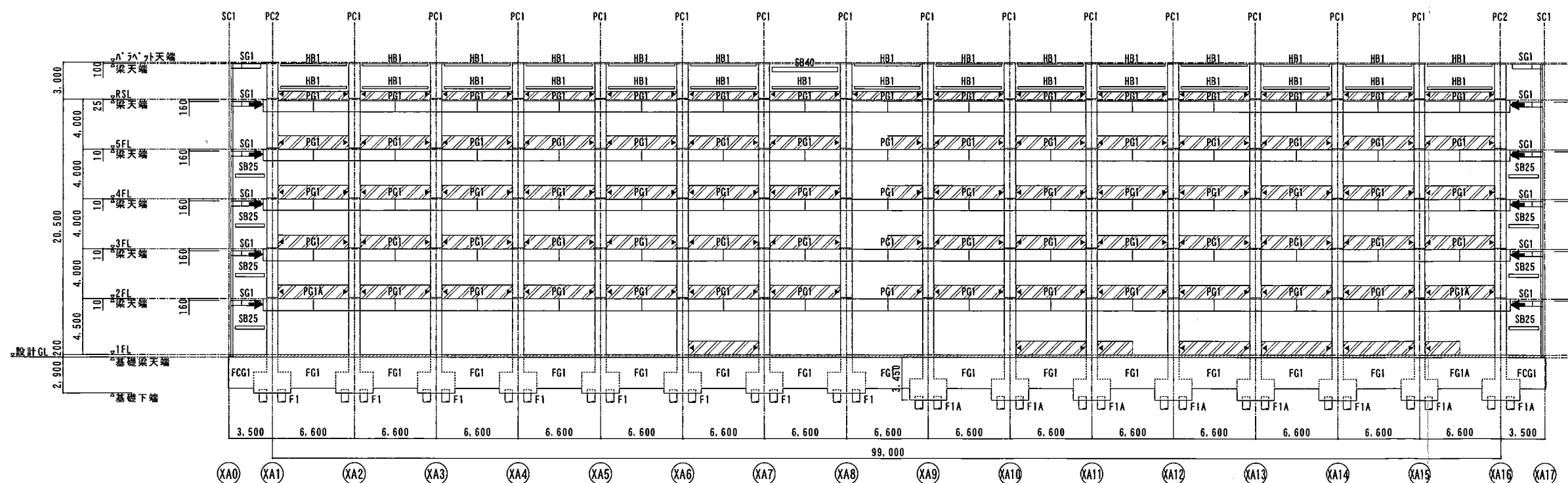
<A棟>
特記なき限り下記に依る
1 桁梁天端は、SL-25とする
2 スパン梁天端は、SL-25(水下)~SL+190(水上)とする
3 鉄骨梁天端は、SL-160とする
4 ()内梁天端は、SL-100とする
5 ｽﾌﾟ天端は、SL±0(水下)~SL+190(水上)とする
6 印は、PCケーブル緊張端を示す
7 印は、PCケーブル固定端を示す
8 印は、PC床敷設方向を示す
9 印は、設備機械基礎を示す

<渡り廊下1>
特記なき限り下記に依る
1 鉄骨の継手はノンブラケット工法を採用する
2 梁天端は、勾配による
3 ｽﾌﾟ符号は DS21 とし、ｽﾌﾟ天端はRFL-10とする
4 小梁符号は B250 とする
5 寸法記入がない小梁はｽﾊﾟﾝ均等配置とする

構造設計者		
一級建築士	第274538号	日浦 治彦
構造設計一級建築士	第 2858号	



(YA2) 通り軸組図 1:200

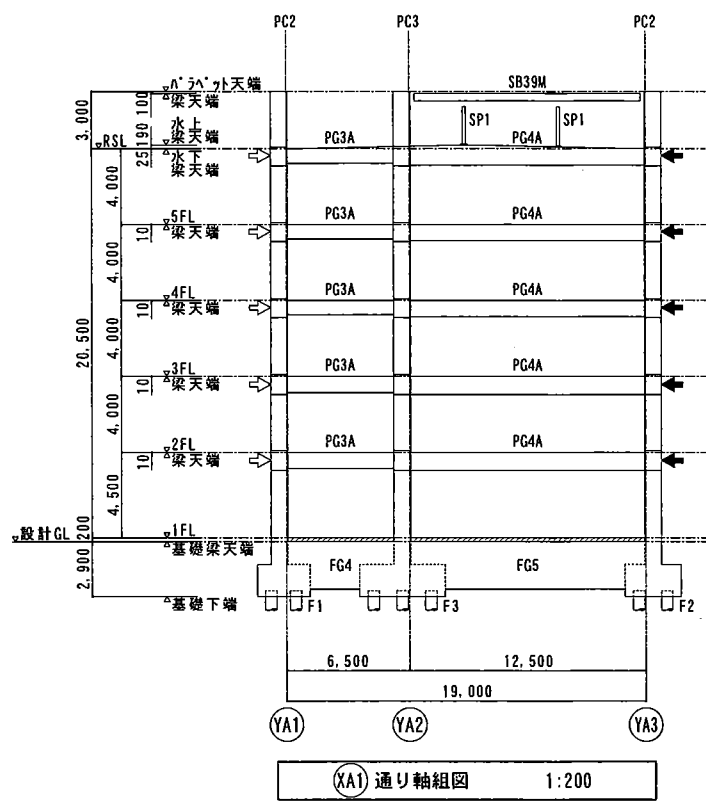


(YA1) 通り軸組図 1:200

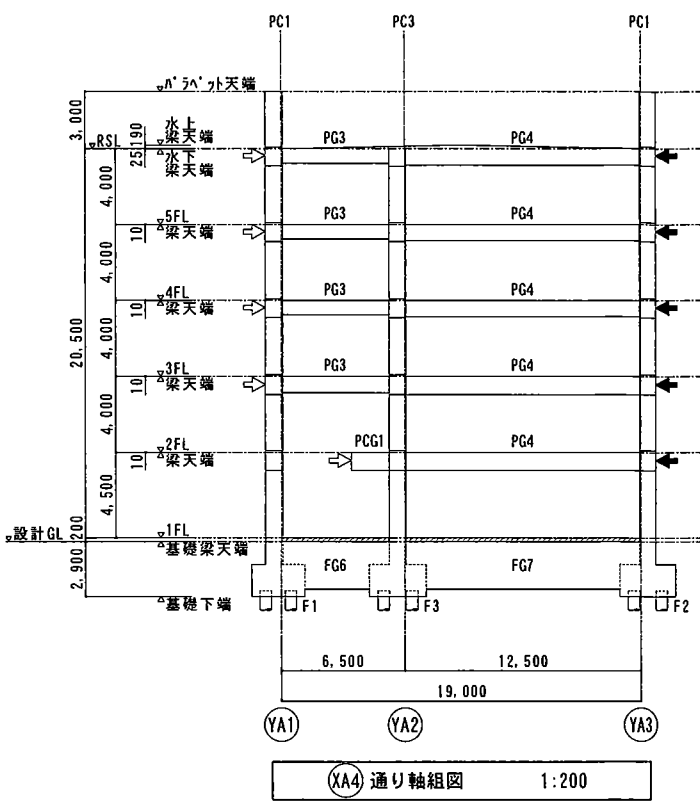
- 特記なき限り下記に依る
- JOINT位置は柱芯から1,000とする
 - 鉄骨梁天端は、FL-150とする
 - ➡印は、PCケーブル緊張端を示す
 - ▽印は、構造スリットを示す
 - ▨は、立上り壁 W15 とする
 - ◀印は、構造スリット(完全スリット)を示す
 - ▨は、増打範囲を示す

構造設計者	
一級建築士 第274538号	日浦 治彦
構造設計一級建築士 第 2858号	

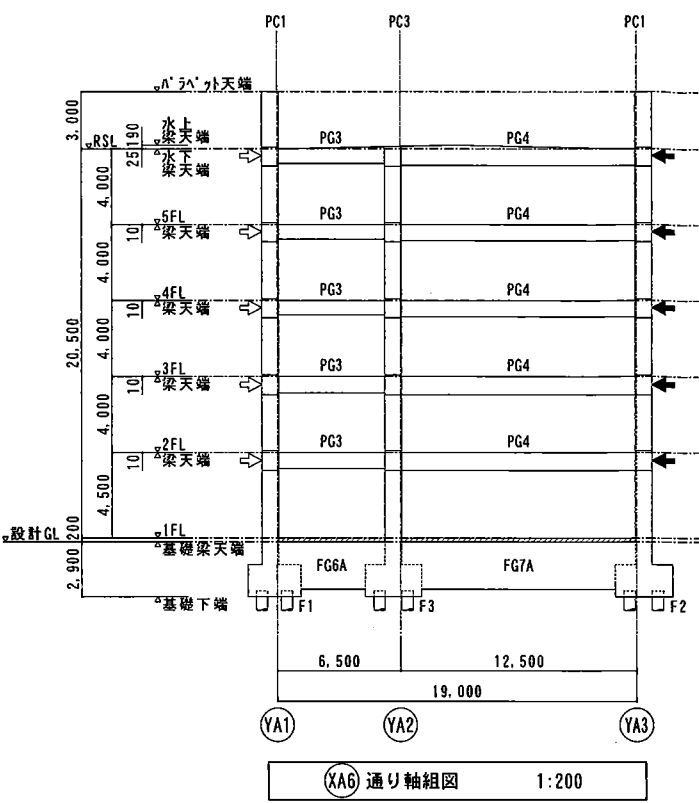
特記事項	株式会社あい設計 一級建築士事務所 山口県知事登録(山)第2763号 管理建築士 一級建築士 第344252号 市川 大輔 建築 一級建築士 第344252号 市川 大輔	JOB. NO	DATE	TITLE	DWG. NO
		201500141	2016	山口東京理科大学 薬学部 増築工事 <A棟>	
		APPD.	CHKD.	DWN.	SCALE
		金崎	市川	久保田	1:200
				軸組図(1)	S
					20



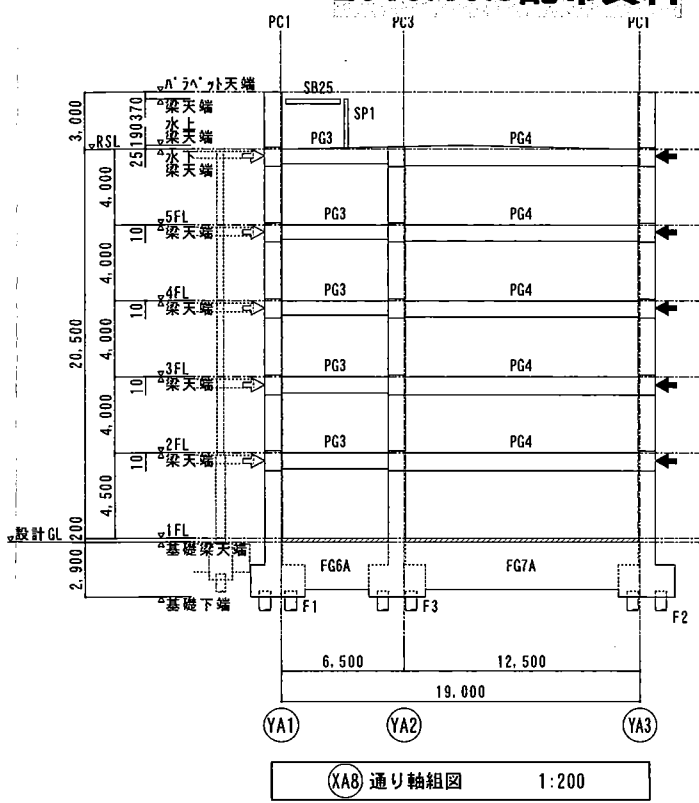
(XA1) 通り軸組図 1:200



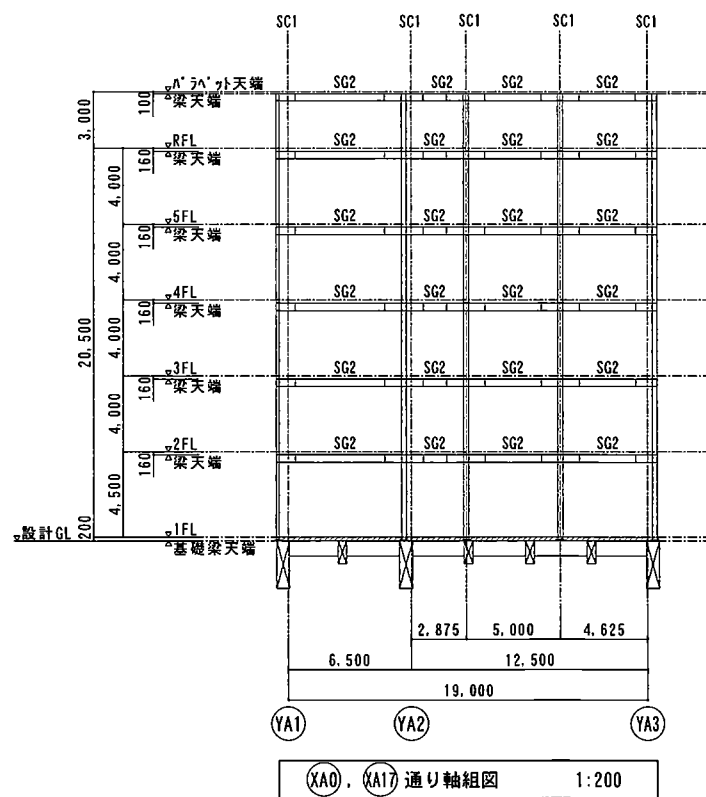
(XA4) 通り軸組図 1:200



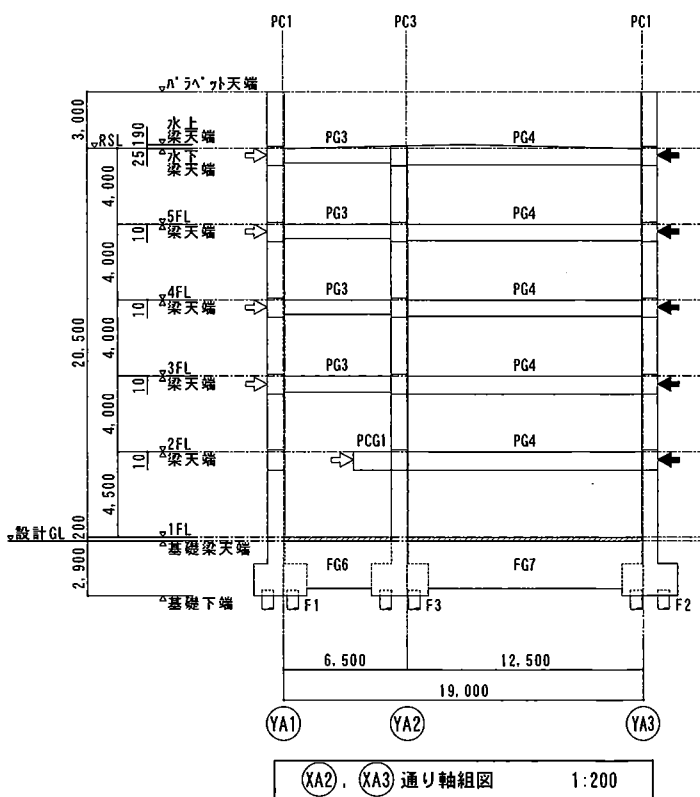
(XA6) 通り軸組図 1:200



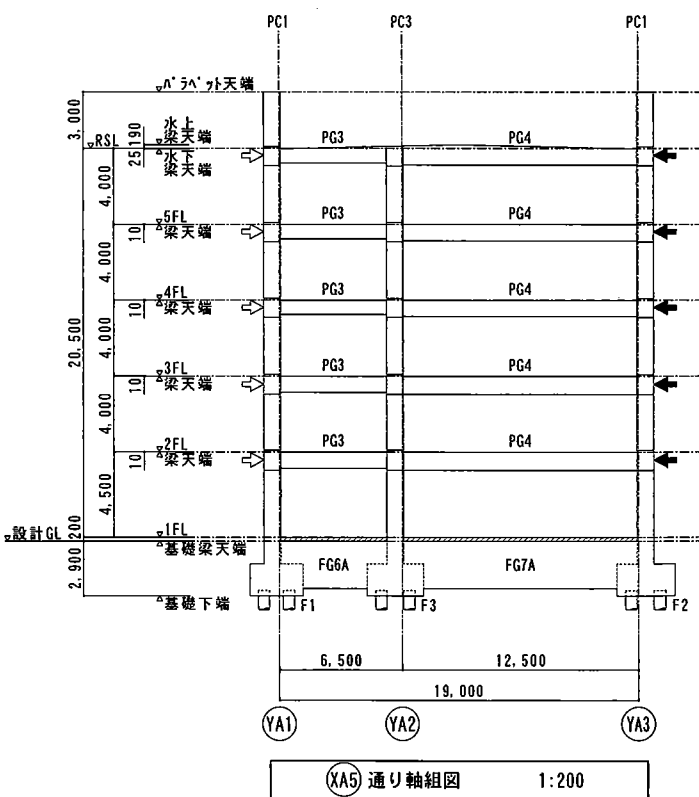
(XA8) 通り軸組図 1:200



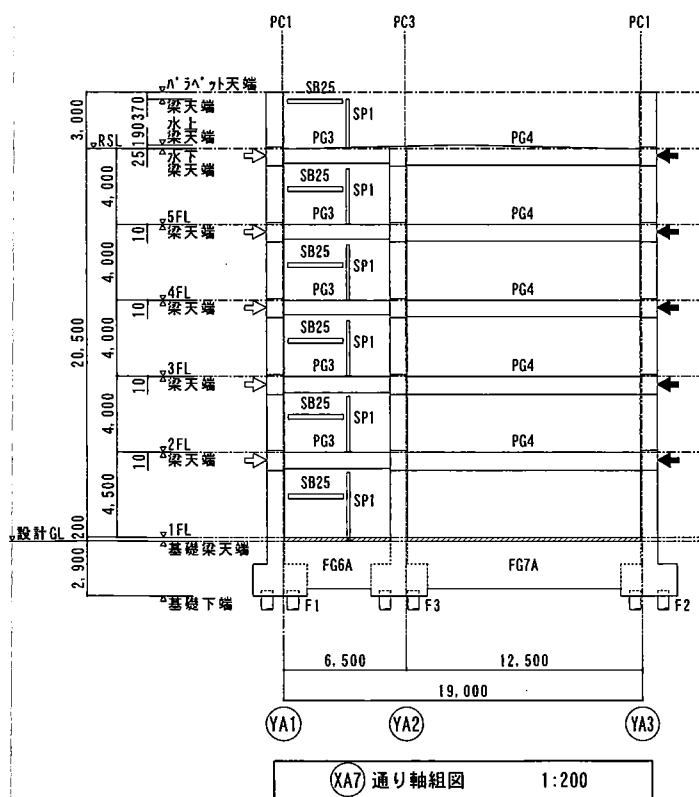
(XA0), (XA17) 通り軸組図 1:200



(XA2), (XA3) 通り軸組図 1:200



(XA5) 通り軸組図 1:200

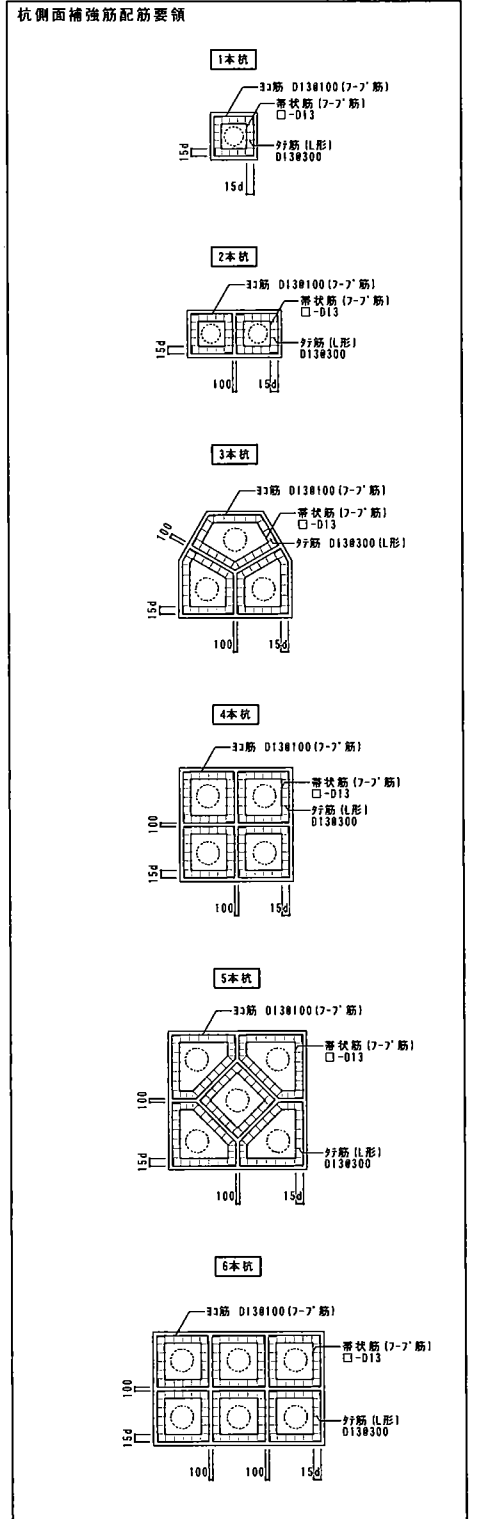
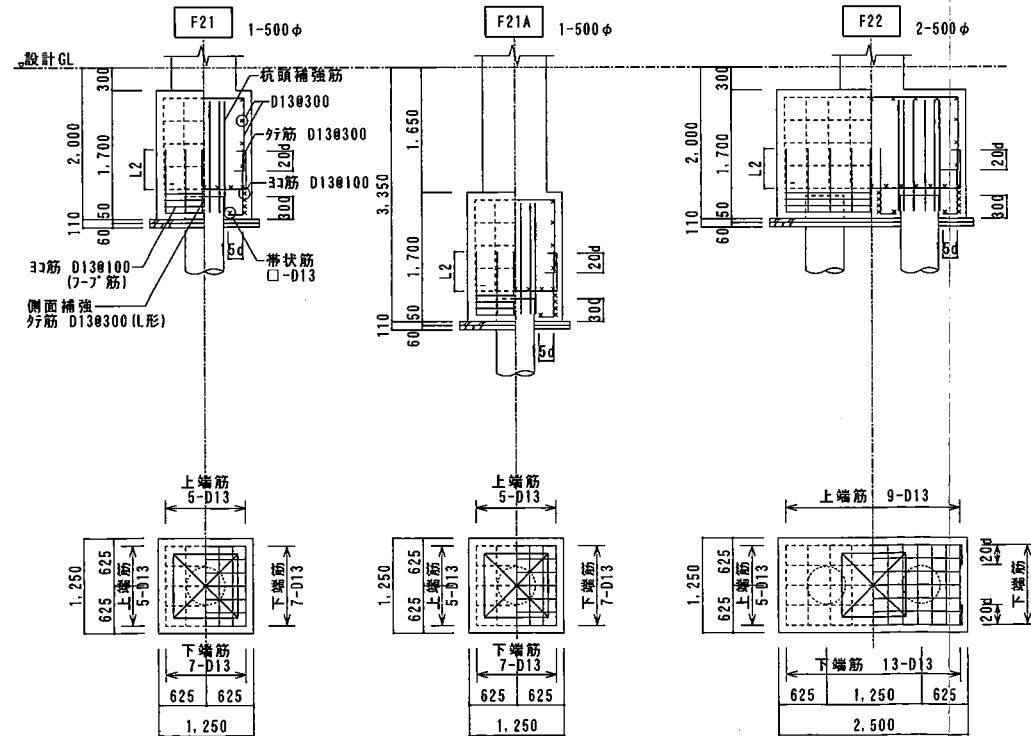
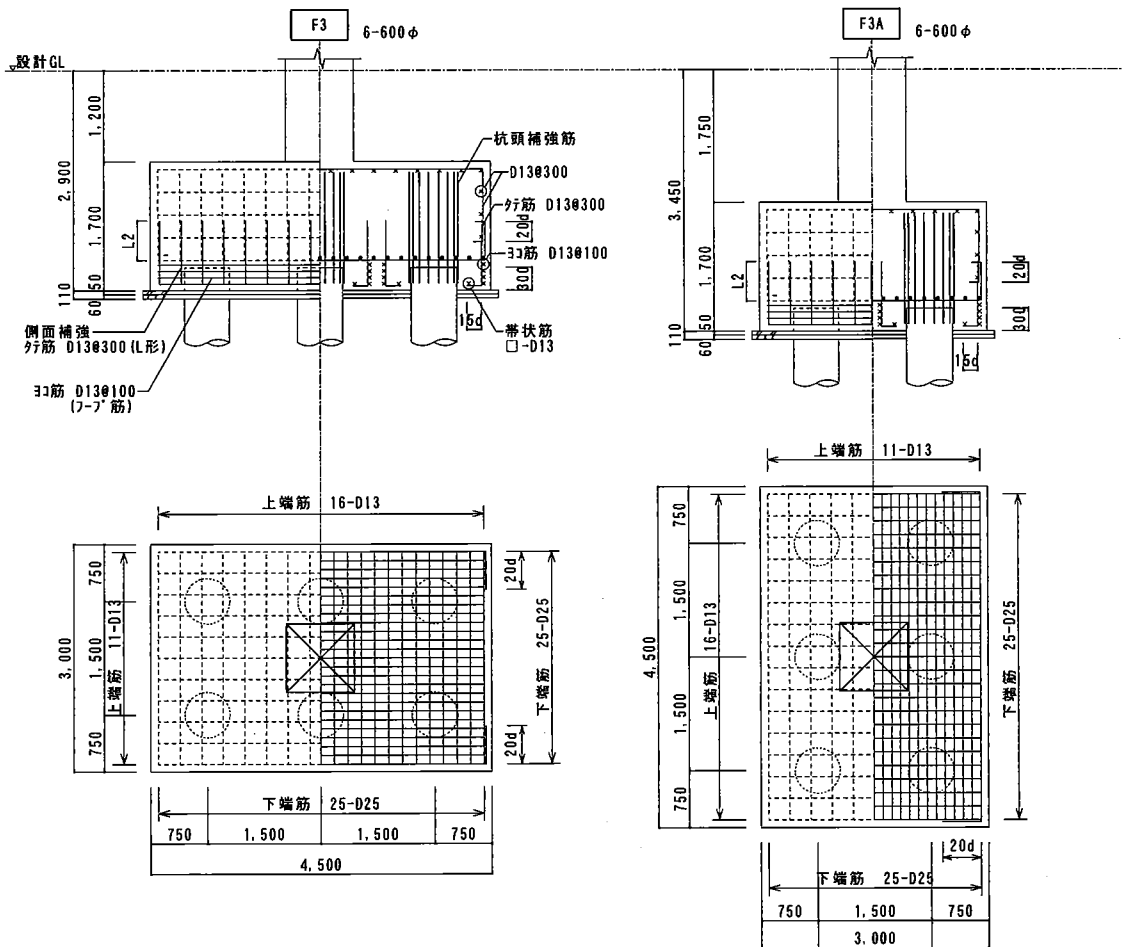
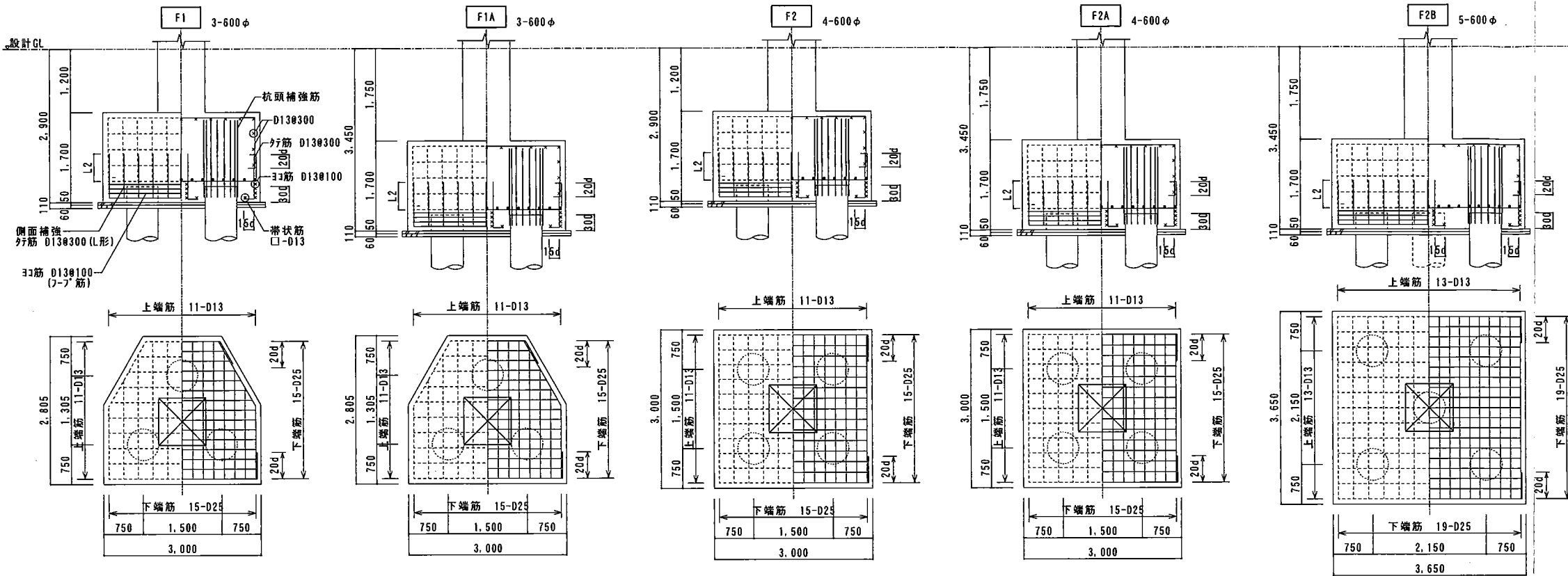


(XA7) 通り軸組図 1:200

- 特記なき限り下記に依る
- JOINT位置は柱芯から1,000とする
 - 鉄骨梁天端は、FL-150とする
 - 印は、PCケーブル緊張端を示す
 - 印は、PCケーブル固定端を示す
 - 印は、増打範囲を示す

構造設計者	
一級建築士 第274538号	日浦 治彦
構造設計一級建築士 第2858号	

基礎リスト 1:50
 コンクリート強度 Fc30(A棟), Fc24(渡り廊下)
 鉄筋材料強度 D10~D16 : SD295A
 D25 : SD345
 偏心方向は、ベース筋を40d立ち上げとする



構造設計者	
一級建築士 第274538号	日浦 治彦
構造設計一級建築士 第 2858号	

特記無き限り下記による。

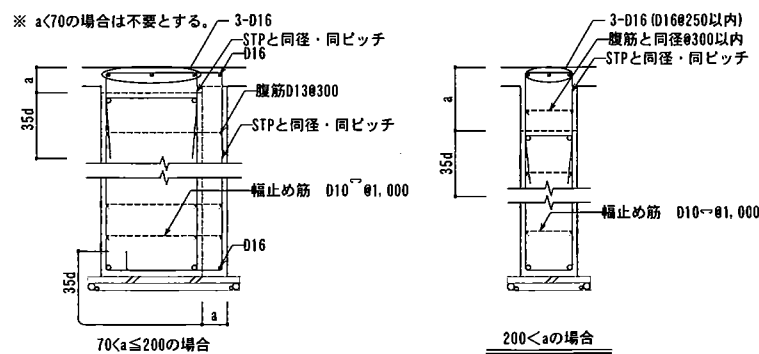
基礎梁リスト 1:40
 ・腹筋 14-D13
 ・幅止め筋 D10-φ1,000
 ・捨てコンクリート厚 50mm
 ・敷き砂利厚 60mm
 ・主筋は、D19~D25 SD345規格品とする。・STPは、SD295A規格品とする。
 D38 SD490規格品とする。

符号	FG1		FG1A			FG2		FG3		FG3A			FG3B		
	端部	中央	XA15 端	中央	XA16 端	端部	中央	端部	中央	XA1 端	中央	XA2 端	XA15 端	中央	XA16 端
△ IFL	断面図 (高さ 2,500mm)														
断面	断面図 (高さ 2,500mm)														
上端筋	8-D38	6-D38	8-D38	6-D38	10-D38	10-D38	6-D38	12-D38	8-D38	14-D38	8-D38	12-D38	12-D38	8-D38	16-D38
下端筋	8-D38	6-D38	8-D38	6-D38	10-D38	10-D38	6-D38	12-D38	8-D38	14-D38	8-D38	12-D38	12-D38	8-D38	16-D38
STP	D13 □φ150		D13 □φ150			D13 □φ150		D13 □φ150		D13 □φ100			D13 □φ100		
腹筋															
備考															

符号	FG4 (FG4A)		FG5 (FG5A)		FG6		FG6A		FG7		FG7A		FCG1	FCG2
	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	全断面	全断面
△ IFL	断面図 (高さ 2,500mm)													
断面	断面図 (高さ 2,500mm)													
上端筋	10-D38 (12-D38)	6-D38 (8-D38)	8-D38 (10-D38)	6-D38	8-D38	6-D38	12-D38	8-D38	10-D38	6-D38	12-D38	8-D38	12-D38	12-D38
下端筋	10-D38 (12-D38)	6-D38 (8-D38)	8-D38 (10-D38)	6-D38	8-D38	6-D38	12-D38	8-D38	10-D38	6-D38	12-D38	8-D38	6-D38	6-D38
STP	D13 □φ150	(D13 □φ150)	D13 □φ150		D13 □φ150		D13 □φ100		D13 □φ150		D13 □φ150		D13 □φ150	D13 □φ150
腹筋														
備考	()内、FG4Aを示す。		()内、FG5Aを示す。											

符号	FB1		FB2			FB3		FB4	FB5	FB6	FCB1	FG21	FG22	FB21、FCB21	
	端部	中央	XA1・XA16 端	中央	XA2・XA15 端	端部	中央	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	
△ IFL	断面図 (高さ 650mm, 1,200mm, 1,450mm, 600mm, 800mm, 1,200mm, 1,500mm, 400mm)														
断面	断面図 (高さ 650mm, 1,200mm, 1,450mm, 600mm, 800mm, 1,200mm, 1,500mm, 400mm)														
上端筋	4-D25	3-D25	6-D25	4-D25	4-D25	4-D25	3-D25	2-D22	4-D22	4-D25	6-D25	5-D25	5-D25	4-D22	
下端筋	3-D25	3-D25	4-D25	4-D25	3-D25	3-D25	3-D25	2-D22	4-D22	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25	4-D22	
STP	D13 □φ200		D13 □φ200			D13 □φ200		D13 □φ200	D13 □φ200	D13 □φ200	D13 □φ200	D13 □φ200	D13 □φ200	D13 □φ200	D13 □φ200
腹筋	2-D13		6-D13			6-D13		6-D13	2-D13	2-D13	6-D13	6-D13	6-D13	2-D13	
備考															

増打ちコンクリート要領図 1:30

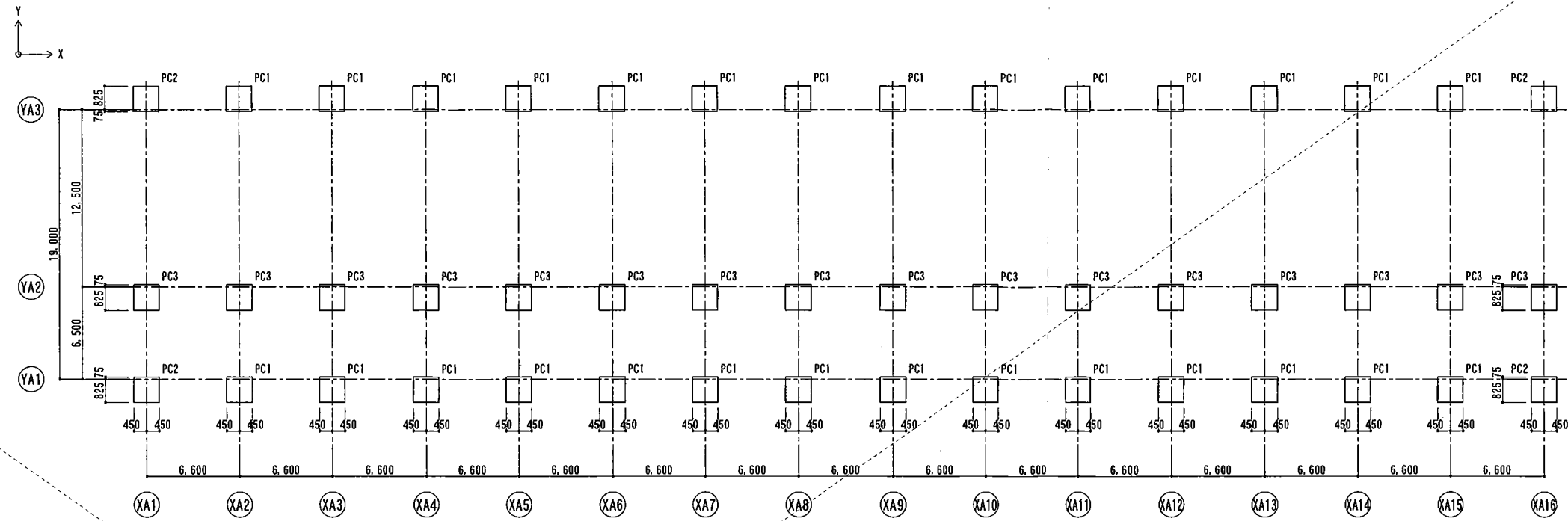


構造設計者	
一級建築士 第274538号	日浦 治彦
構造設計一級建築士 第2858号	

特記無き限り下記による。
 ・主筋は、D16~D25 SD345規格品とする。
 D29~D35 SD390規格品とする。
 D38 SD490規格品とする。
 ・HOOPは、SD295A規格品とする。
 ・S13は 785N/mm²級高強度せん断補強筋とする。
 ・パネルゾーンの HOOPはD13 □@100とする。

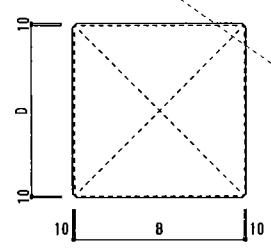
(I 印は、2段筋を示す。
 ・HOOPは柱脚の機械式継手部などフック形状にて収まらない箇所は溶接閉鎖型として良い。
 ・柱主筋に用いる機械式継手は、1階柱脚はSA級、それ以外はA級とする。

符号	PC1	PC2	PC3
R階			
主筋	18-D29	16-D29	18-D29
HOOP	D13 □@100	D13 □@100	D13 □@100
備考			
5階			
主筋	18-D35	16-D35	18-D35
HOOP	D13 □@100	D13 □@100	D13 □@100
備考			
4階			
主筋	18-D38	16-D38	18-D38
HOOP	D13 □@100	D13 □@100	D13 □@100
備考			
3階			
主筋	18-D38	16-D38	18-D38
HOOP	S13 □@100	S13 □@100	S13 □@100
備考			
2階			
主筋	18-D38	16-D38	18-D38
HOOP	S13 □@100	S13 □@100	S13 □@100
備考			
1階柱頭			
主筋	18-D38	16-D38	18-D38
HOOP	S13 □@90	S13 □@100	S13 □@90
備考			
1階柱脚			
主筋	22-D38	24-D38	20-D38
HOOP	S13 □@90	S13 □@100	S13 □@90
備考			
柱脚 (1FLより下部)			
主筋	20-D25	20-D25	20-D25
HOOP	D16 □@100	D16 □@100	D16 □@100
備考	Fc=30N/mm ²	Fc=30N/mm ²	Fc=30N/mm ²



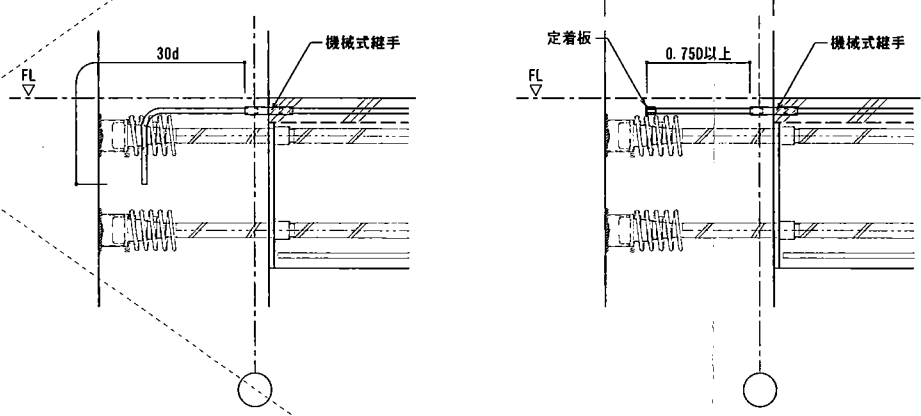
柱芯線図 1:100, 1:200

柱外周ふかし要領図 1:20



柱内定着配筋要領図 1:20

特記無き限り下記による。
 ・柱内定着する配筋は、下記へのいずれかとする。



構造設計者	
一級建築士 第274538号	日浦 治彦
構造設計一級建築士 第 2858号	

PCa大梁リスト (I) 1:40

特記無き限り下記による。

- ・ 腹筋 4-D10
- ・ 補正め筋 D10-φ1.000

- ・ 主筋は、D19~D25 SD345規格品とする。
- ・ D29~D35 SD390規格品とする。
- ・ STPIは、SD295A規格品とする。

- ・ PC鋼材は SWPR7BLとする。
- ・ 端部STPの範囲は、L/4の範囲とする。
- ・ STPIは、場所打ちコンクリートを示す。

- ・ PCa部材せいは梁せい-150とする。
- ・ 主筋は桁方向梁 (PG1・PG2) は中央目地部。
- ・ スパン方向梁 (PG3・PG4) は柱際でカットオフする。

符号 位置	PG1 (PG1A)		PG2		PG3 (PG3A)			PG4			PG4A		
	端部	中央	端部	中央	YA1 端	中央	YA2 端	YA2 端	中央	YA3 端	YA2 端	中央	YA3 端
RF Fc=60													
PC鋼材 (1次) (2, 3次)	(3次) PC鋼より線 × 2c-5-15.2φ		(3次) PC鋼より線 × 2c-5-15.2φ		(2次) PC鋼より線 × 2c-9(7)-15.2φ (3次) PC鋼より線 × 2c-9(7)-15.2φ			(2次) PC鋼より線 × 2c-9-15.2φ (3次) PC鋼より線 × 2c-9-15.2φ			(2次) PC鋼より線 × 2c-7-15.2φ (3次) PC鋼より線 × 2c-7-15.2φ		
上端筋	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16
下端筋	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D19	5-D19	4-D19	4-D19	6-D19	4-D19	4-D19	6-D19	4-D19
S T P	D13 □ φ100		D13 □ φ100		D13 □ φ100			D13 □ φ100			D13 □ φ100		
腹筋	2-D10		2-D10		2-D10			2-D10			2-D10		
備考	梁上端はスラブ勾配による。(梁下揃えとする) ()内数値はPG3Aを示す。							梁上端はスラブ勾配による。(梁下揃えとする)					
5F Fc=60													
PC鋼材 (1次) (2, 3次)	(3次) PC鋼より線 × 4c-5-15.2φ		(3次) PC鋼より線 × 4c-5-15.2φ		(2次) PC鋼より線 × 2c-9(7)-15.2φ (3次) PC鋼より線 × 2c-9(7)-15.2φ			(2次) PC鋼より線 × 2c-9-15.2φ (3次) PC鋼より線 × 2c-9-15.2φ			(2次) PC鋼より線 × 2c-7-15.2φ (3次) PC鋼より線 × 2c-7-15.2φ		
上端筋	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16
下端筋	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D19	5-D19	4-D19	4-D19	6-D19	4-D19	4-D19	6-D19	4-D19
S T P	D13 □ φ100		D13 □ φ100		D13 □ φ100			D13 □ φ100			D13 □ φ100		
腹筋	2-D10		2-D10		2-D10			2-D10			2-D10		
備考	()内数値はPG3Aを示す。							()内数値はPG3Aを示す。					
4F Fc=60													
PC鋼材 (1次) (2, 3次)	(3次) PC鋼より線 × 4c-5-15.2φ		(3次) PC鋼より線 × 4c-5-15.2φ		(2次) PC鋼より線 × 2c-9(7)-15.2φ (3次) PC鋼より線 × 2c-9(7)-15.2φ			(2次) PC鋼より線 × 2c-9-15.2φ (3次) PC鋼より線 × 2c-9-15.2φ			(2次) PC鋼より線 × 2c-7-15.2φ (3次) PC鋼より線 × 2c-7-15.2φ		
上端筋	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16
下端筋	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D19	5-D19	4-D19	4-D19	6-D19	4-D19	4-D19	6-D19	4-D19
S T P	D13 □ φ100		D13 □ φ100		D13 □ φ100			D13 □ φ100			D13 □ φ100		
腹筋	2-D10		2-D10		2-D10			2-D10			2-D10		
備考	()内数値はPG3Aを示す。							()内数値はPG3Aを示す。					
3F Fc=60													
PC鋼材 (1次) (2, 3次)	(3次) PC鋼より線 × 4c-5-15.2φ		(3次) PC鋼より線 × 4c-5-15.2φ		(2次) PC鋼より線 × 2c-9(7)-15.2φ (3次) PC鋼より線 × 2c-9(7)-15.2φ			(2次) PC鋼より線 × 2c-9-15.2φ (3次) PC鋼より線 × 2c-9-15.2φ			(2次) PC鋼より線 × 2c-7-15.2φ (3次) PC鋼より線 × 2c-7-15.2φ		
上端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D19	5-D19	4-D19	4-D19	6-D19	4-D19	4-D19	6-D19	4-D19
S T P	D13 □ φ100		D13 □ φ100		D13 □ φ100			D13 □ φ100			D13 □ φ100		
腹筋	2-D10		2-D10		2-D10			2-D10			2-D10		
備考	()内数値はPG3Aを示す。							()内数値はPG3Aを示す。					
2F Fc=60													
PC鋼材 (1次) (2, 3次)	(2次) PC鋼より線 × 2c-5-15.2φ (3次) PC鋼より線 × 2c-5-15.2φ		(2次) PC鋼より線 × 2c-5-15.2φ (3次) PC鋼より線 × 2c-5-15.2φ		(2次) PC鋼より線 × 2c-9(7)-15.2φ (3次) PC鋼より線 × 2c-9(7)-15.2φ			(2次) PC鋼より線 × 2c-9-15.2φ (3次) PC鋼より線 × 2c-9(7)-15.2φ			(2次) PC鋼より線 × 2c-7-15.2φ (3次) PC鋼より線 × 2c-7-15.2φ		
上端筋	4-D35 (6(4/2)-D35)	4-D35 (4-D35)	4-D29	4-D29	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16
下端筋	4-D35 (6(4/2)-D35)	4-D35 (4-D35)	4-D29	4-D29	4-D19	5-D19	4-D19	4-D19	6-D19	4-D19	4-D19	6-D19	4-D19
S T P	D13 □ φ100		D13 □ φ100		D13 □ φ100			D13 □ φ100			D13 □ φ100		
腹筋	2-D10		2-D10		2-D10			2-D10			2-D10		
備考	()内数値はPG1Aを示す。							()内数値はPG3Aを示す。					

構造設計者	第一級建築士 第274538号	日浦 治彦
構造設計一級建築士	第2858号	

PCa大梁リスト (2) 1:40

特記なき限り下記による。
 ・腹筋 4-D10
 ・横止め筋 D10@1,000

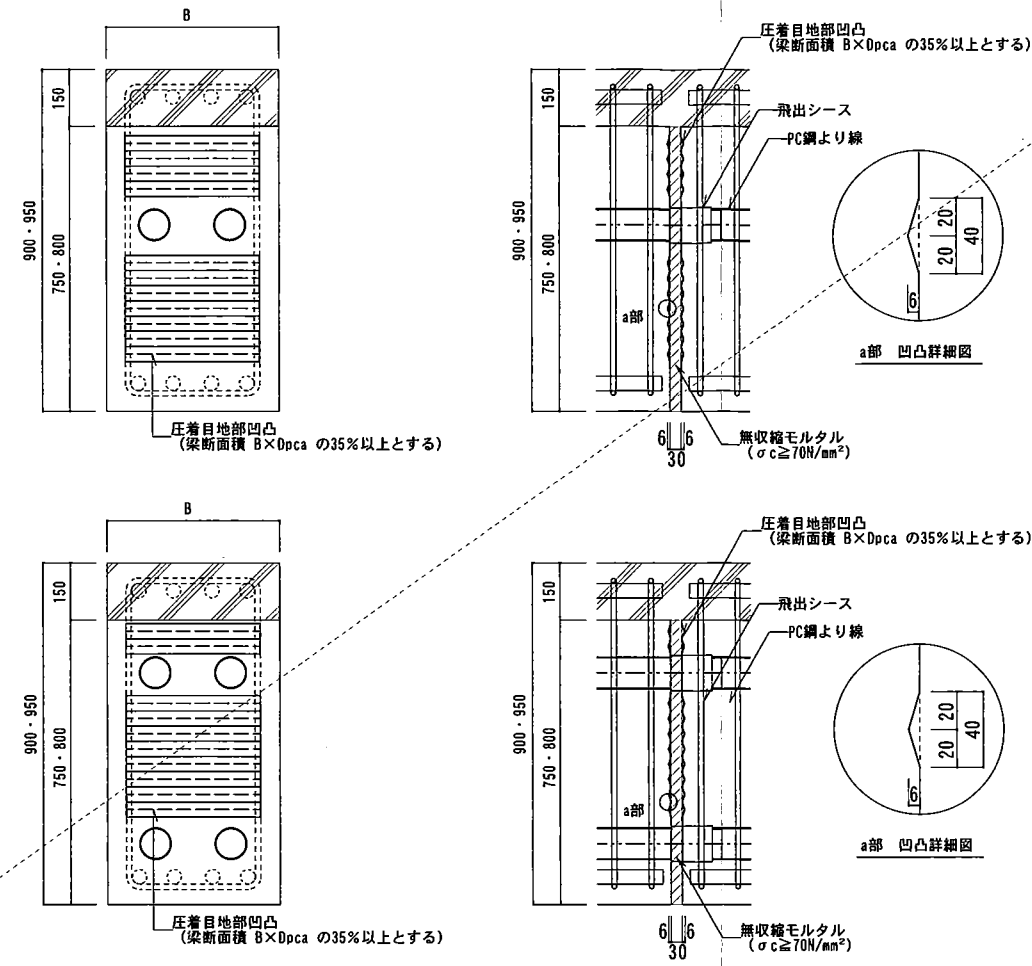
・主筋は、D19~D25 S0345規格品とする。
 ・STPは、SD295A規格品とする。

・PC鋼材は SWPR7BLとする。
 ・端部STPの範囲は、L0/4の範囲とする。
 ・は、場所打ちコンクリートを示す。

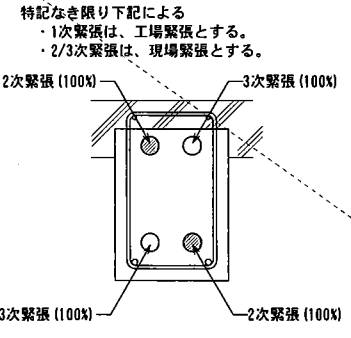
・PCa部材せいは梁せい-150とする。
 ・主筋は柱際でカットオフする。

符、号	PCGI	
位置	元端	先端
RF		
Fc=60		
PC鋼材	(1次)	(1次)
	(2、3次)	(2、3次)
上端筋		
下端筋		
S T P		
腹筋		
備考		
位置		
5F		
Fc=60		
PC鋼材	(1次)	(1次)
	(2、3次)	(2、3次)
上端筋		
下端筋		
S T P		
腹筋		
備考		
位置		
4F		
Fc=60		
PC鋼材	(1次)	(1次)
	(2、3次)	(2、3次)
上端筋		
下端筋		
S T P		
腹筋		
備考		
位置		
3F		
Fc=60		
PC鋼材	(1次)	(1次)
	(2、3次)	(2、3次)
上端筋		
下端筋		
S T P		
腹筋		
備考		
位置		
2F		
Fc=60		
PC鋼材	(1次)	(1次)
	(2、3次)	(2、3次)
上端筋	4-D25 (柱内定着)	4-D25
下端筋	4-D16	4-D16
S T P	D13 @ 100	
腹筋		
備考		

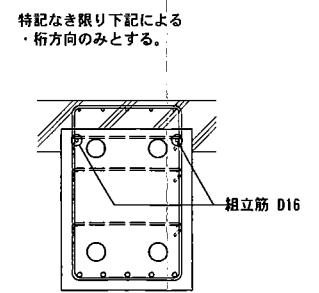
中央圧着目地部凹凸要領図 1:10



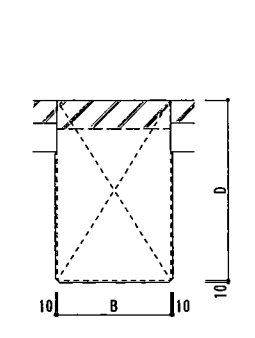
PC鋼材緊張順序



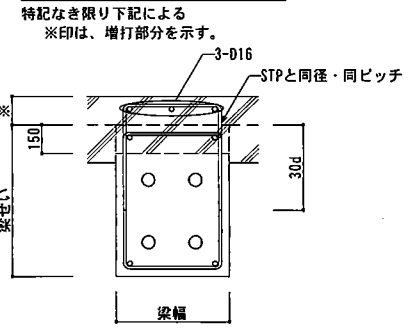
PCa梁製作時組立補強筋



梁外周ふかし要領図



PC梁フカシ配筋要領図 1:20



構造設計者	
一級建築士 第274538号	日浦 治彦
構造設計一級建築士 第2858号	

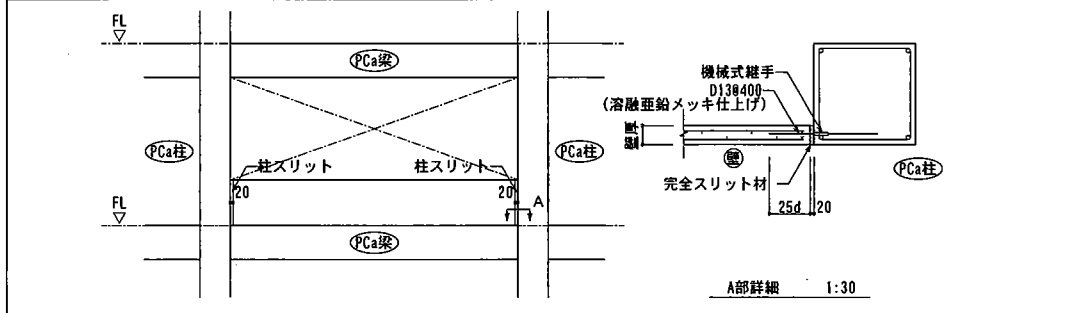
スラブリスト

符号	板厚	位置	短辺方向	長辺方向	備考
S1	150	上端筋	D10・D13@200	D10@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	
S2	150	上端筋	D10・D13@150	D10@150	
		下端筋	D10@150	D10@150	
S3	150	上端筋	D10・D13@200	D10・D13@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	
CS1	150	上端筋	D10・D13@200	D10・D13@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	
DS1	150	上端筋	D10・D13@200	D10@200	フラットデッキ t=1.2
		下端筋	D10@200	D10@200	
FS1	300	上端筋	D13@200	D13@200	
		下端筋	D13@200	D13@200	
S21	150	上端筋	D10・D13@200	D10・D13@200	
		下端筋	D10・D13@200	D10@200	
CS21	150	上端筋	D10・D13@200	D10・D13@200	
		下端筋	D10・D13@200	D10@200	
DS21	QL99-50 (山上 80)				

壁リスト 特記無き限り下記による。
・幅止め筋 D13-@1,000

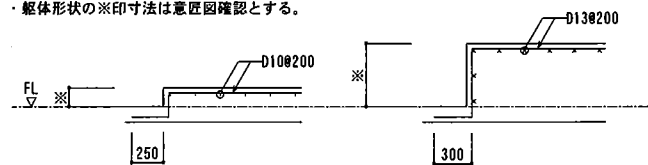
符号	厚さ	壁配筋		曲げ補強筋			備考
		縦筋	横筋	縦筋	横筋	ななめ筋	
W15	150	D13@200 ダブル	D13@200 ダブル	-	-	-	

構造スリット要領図



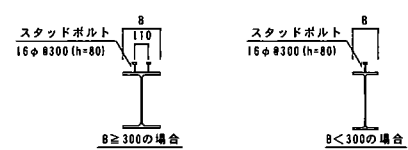
機械基礎配筋詳細図 1:30

特記無き限り下記による。
・躯体形状の※印寸法は意匠図確認とする。

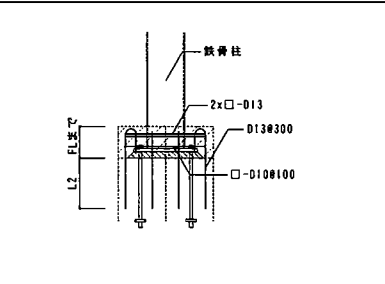


スタッドボルト取付け要領

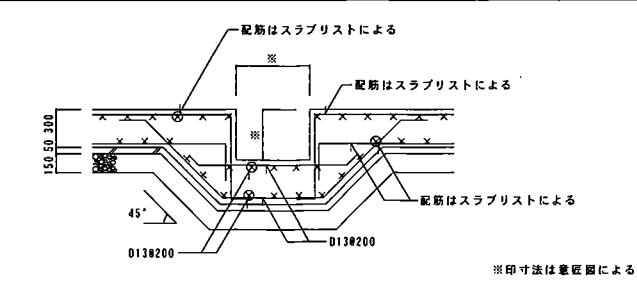
QLデッキスラブを支持する際はスタッドボルト取付
大梁・小梁



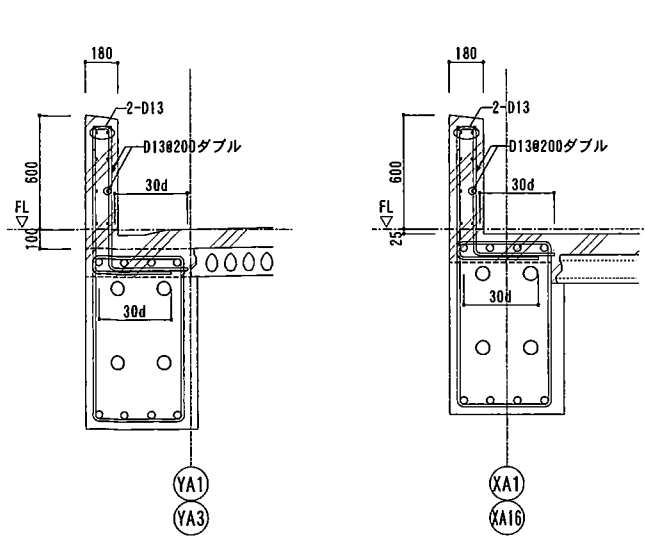
渡り廊下 柱保護コンクリート配筋要領 1:30



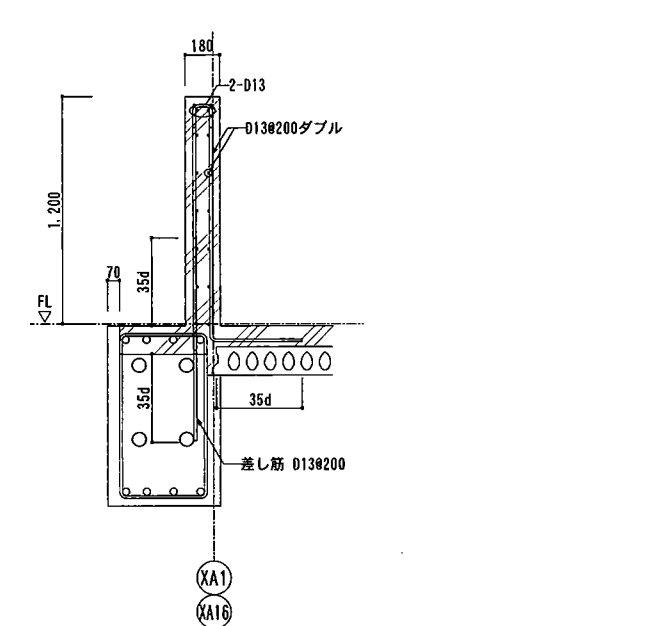
差場配筋図 1:30



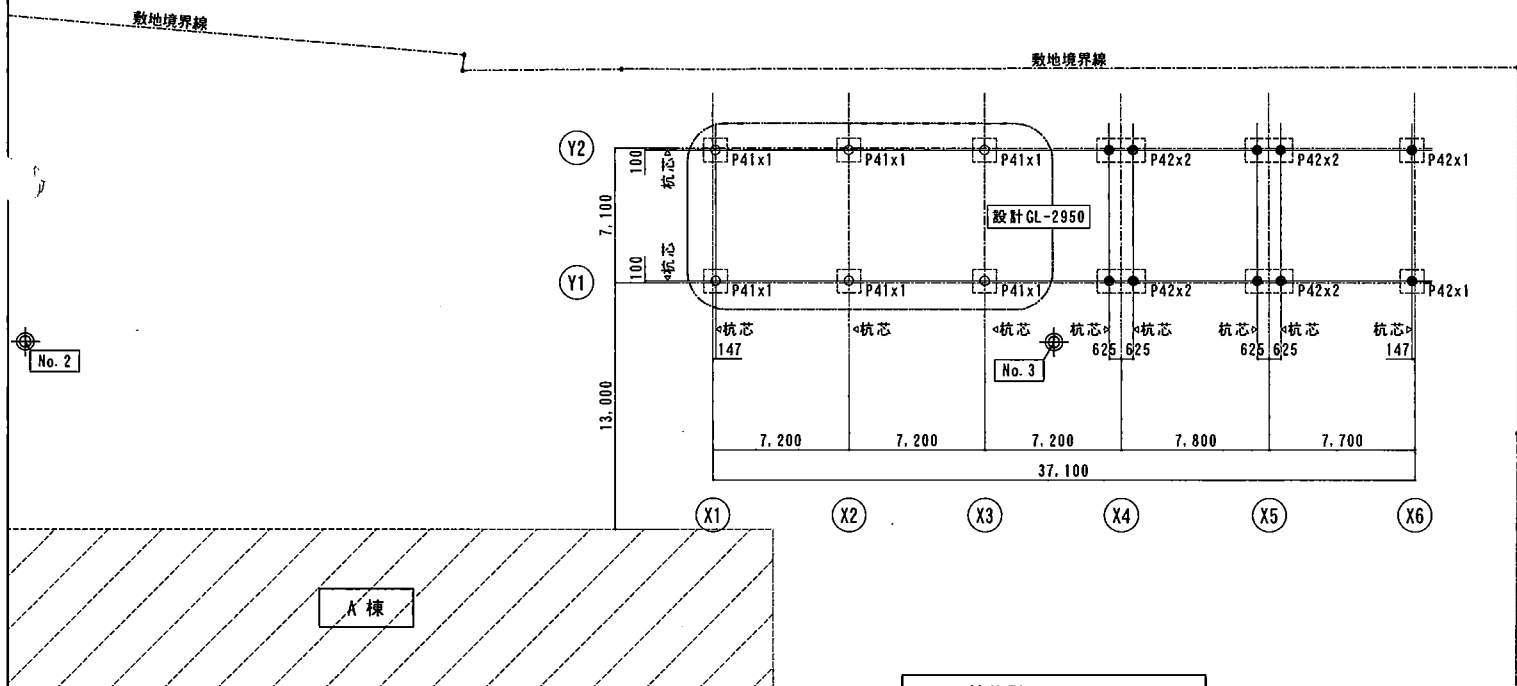
バラベツト納まり詳細図 1:20



立上り壁配筋詳細図 1:20

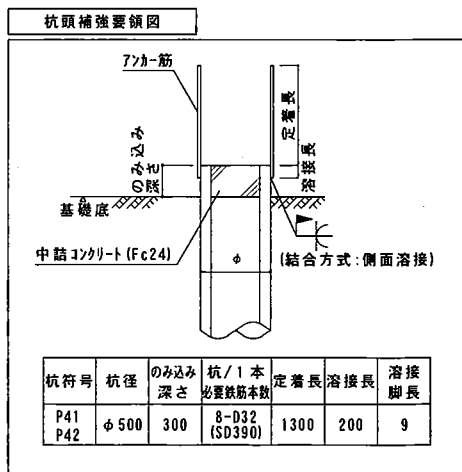


構造設計者	
一級建築士 第274538号	日浦 治彦
構造設計一級建築士 第 2858号	

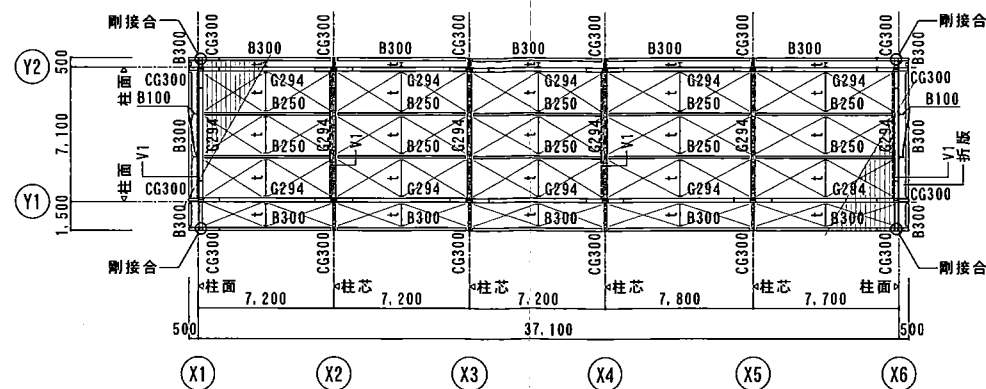


杭伏図 1:200

- 特記なき限り下記に依る
- 1 杭先端位置は、設計GL-4250とする
 - 2 内数値は、設計GLからの杭先端位置を示す
 - 3 杭芯に施工誤差が生じた場合は、速やかに監理者に報告し、補強の有無を確認する事
 - 4 ⊕ は、ボーリング位置を示す

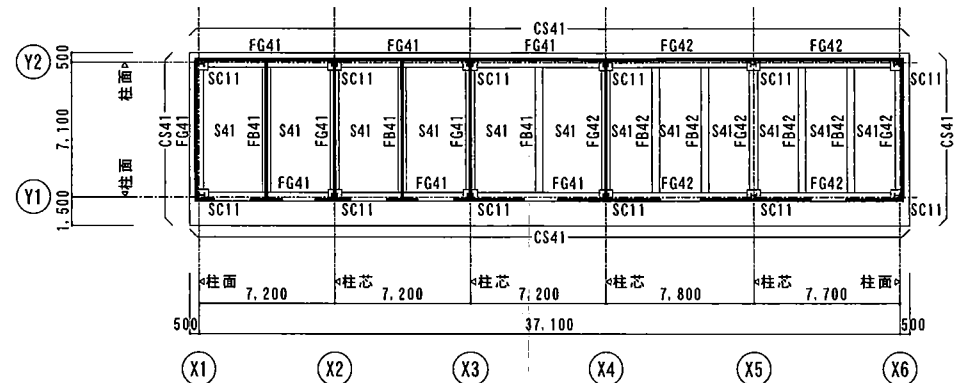


杭リスト		施工法: Hyper-MEGA工法		上杭		下杭		拡大掘削率	杭耐力	杭本数	合計
符号	記号	全長	杭径・仕様	長さ	杭径・仕様	長さ					
P41	⊕	10.0m	φ500 HiSC85 (SKK490 t=9.0mm)	5.0m	φ500-400-500 JP-NPH 85 (C種)	5.0m	1.00	950 KN/本	6		
P42	●	9.0m	φ500 HiSC85 (SKK490 t=9.0mm)	5.0m	φ500-400-500 JP-NPH 85 (C種)	4.0m	1.00	950 KN/本	10	16	



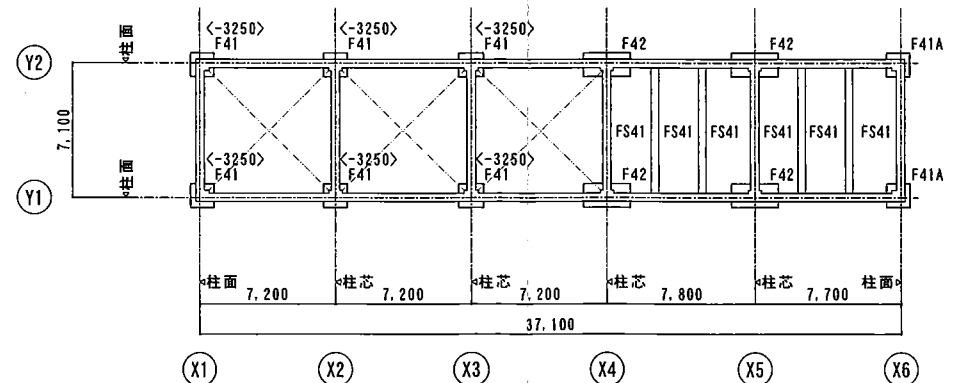
R階梁伏図 1:200

- 特記なき限り下記に依る
- 1 〓 は、JOINT位置を示す (柱芯より1000mm)
 - 2 梁天端は、勾配による
 - 3 寸法記入がない小梁はλn'均等配置とする
 - 4 屋根ブレースは、HV1とする
 - 5 屋根は、折版 (h=165)とする



1階梁伏図 1:200

- 特記なき限り下記に依る
- 1 立上り壁 W12 (h=500)を示す
 - 2 基礎梁天端は、設計GL-1550とする
 - 3 寸法記入がない小梁はλn'均等配置とする



ピット・基礎伏図 1:200

- 特記なき限り下記に依る
- 1 基礎下端は、設計GL-4550とする
 - 2 <>内は、設計GLからの基礎下端位置を示す
 - 3 印は、埋戻し範囲を示す

構造設計者		
一級建築士	第274538号	日浦 治彦
構造設計一級建築士	第2858号	

■契約の経緯

事業名	変更回数	受託・請負業者	当初設計額	契約金額	現契約額	入札日	契約日	契約期間
基本設計・実施設計業務委託	0	株式会社あい設計	82,803,340	31,104,000	40,422,240	28.02.02	28.02.03	28.02.03 ~ 28.12.02
	1			9,318,240			28.11.29	~ 29.03.24
監理業務委託	0	株式会社大建設	44,949,600	31,644,000	31,644,000	28.12.20	28.12.21	28.12.21 ~ 30.03.27
	1						30.03.05	~ 30.03.31
変更申請等業務委託(その1)	0	株式会社あい設計	7,348,320	7,348,320	7,348,320	随意契約	29.08.08	29.08.08 ~ 30.02.28
変更申請等業務委託(その2)	0	株式会社あい設計	3,132,000	3,132,000	3,132,000	随意契約	30.01.23	30.01.23 ~ 30.02.28
杭工事	0	嶋田工業・ヘキムラ興業・エム・ビー・オーシステム 特定建設工事共同企業体	652,365,360	604,800,000	608,576,760	28.11.15	28.11.21 28.12.14	28.12.14 ~ 29.05.31
	1			3,776,760			29.05.01 29.05.30	~
A棟建築主体工事	0	嶋田工業・ヘキムラ興業 特定建設工事共同企業体	2,410,560,000	2,170,800,000	2,346,829,200	29.01.31	29.02.09 29.02.14	29.02.14 ~ 30.02.28
	1			131,295,600			29.08.14 29.09.15	~
	2			44,733,600			30.02.05 30.02.07	~
	3						30.02.21	~ 30.03.31
B棟建築主体工事	0	西松建設・富士産業 共同企業体	2,218,320,000	1,825,200,000	1,888,290,360	随意契約 29.01.31 29.02.06 29.02.07	29.02.13 29.02.24	29.02.24 ~ 30.02.28
	1			40,875,840			29.08.07 29.09.15	~
	2			22,214,520			30.01.29 30.02.07	~
A, B棟機械設備工事	0	三建設備工業・嶋田工業 特定建設工事共同企業体	1,722,600,000	1,382,400,000	1,408,395,600	29.02.08	29.02.21 29.03.23	29.03.23 ~ 30.02.28
	1			25,995,600			30.01.31 30.02.07	~
	2						30.02.21	~ 30.03.31
A, B棟電気設備工事	0	中電工・太陽産業 共同企業体	914,544,000	766,800,000	800,485,200	29.02.08	29.02.21 29.03.23	29.03.23 ~ 30.02.28
	1			21,816,000			29.10.18 29.11.02	~
	2			11,869,200			29.11.24 29.12.22	~
	3						30.02.20	~ 30.03.31

仮設工事費(仮囲い)	0	嶋田工業株式会社	6,393,600	6,393,600	6,393,600	随意契約	30.02.20	30.02.20 ~ 30.03.31
C棟電気設備工事	0	株式会社サンコウワ	37,735,200	28,620,000	28,620,000	29.04.11	29.04.27	29.04.27 ~ 30.02.28
	1						30.02.23	~ 30.03.31
C棟建築主体工事	0	嶋田工業・アーステクノ特定建設工事共同企業体	248,724,000	242,784,000	242,784,000	29.05.02	29.05.17 29.05.30	29.05.30 ~ 30.02.28
	1						30.02.21	~ 30.03.31
C棟給排水衛生ガス設備工事	0	関野工務店株式会社	18,500,400	16,308,000	16,308,000	29.07.25	29.08.10	29.08.10 ~ 30.02.28
	1						30.02.21	~ 30.03.31
汚水処理設備工事	0	株式会社寿建設	82,069,200	77,760,000	77,760,000	29.09.05	29.09.11	29.09.11 ~ 30.02.28
	1						30.02.19	~ 30.03.31
C棟空調和設備工事	0	山口東京理科大学薬学部増築工事(C棟空調和設備工事) 三建設備工業・嶋田工業特定建設工事共同企業体	414,720,000	410,400,000	410,400,000	30.02.06	30.02.15 30.03.06	30.03.06 ~ 30.11.30

次年度に繰り越される事業

事業名	契約期間	工期延長	現契約額	変更契約額				変更後契約額
				工期延長に伴うもの	仮使用に伴うもの	その他理由によるもの	計	
監理業務委託	28.12.21 ~ 30.03.31	~ 30.05.19	31,644,000	0	0	0	0	31,644,000
A棟建築主体工事	29.02.14 ~ 30.03.31	~ 30.05.19	2,346,829,200	15,562,800	0	0	15,562,800	2,362,392,000
A, B棟機械設備工事	29.03.23 ~ 30.03.31	~ 30.05.19	1,408,395,600	4,330,800	0	0	4,330,800	1,412,726,400
A, B棟電気設備工事	29.03.23 ~ 30.03.31	~ 30.05.19	800,485,200	2,440,800	0	0	2,440,800	802,926,000
仮設工事費(仮囲い)	30.02.20 ~ 30.03.31	~ 30.11.30	6,393,600	0	2,721,600	0	2,721,600	9,115,200
C棟電気設備工事	29.04.27 ~ 30.03.31	~ 30.11.30	28,620,000	1,684,800	0	3,000,000	4,684,800	33,304,800
C棟建築主体工事	29.05.30 ~ 30.03.31	~ 30.11.30	242,784,000	12,228,840	0	31,000,000	43,228,840	286,012,840
C棟給排水衛生ガス設備工事	29.08.10 ~ 30.03.31	~ 30.11.30	16,308,000	1,237,680	0	2,000,000	3,237,680	19,545,680
汚水処理設備工事	29.09.11 ~ 30.03.31	~ 30.11.30	77,760,000	3,960,360	18,991,800	0	22,952,160	100,712,160
研究機器類整備事業	~ 32.03.26		**	**	**	**	**	**

平成30年 / 月30日

山陽小野田市長 藤田剛二 様

前市長
白中 博 文

山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部校舎建設工事に係る工期の取り扱い
について

山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部校舎建設工事については、平成28年10月3日に山陽小野田市役所3階第2委員会室において山陽小野田市内のAランク及びBランクの業者を対象に開催した「山口東京理科大学薬学部校舎建設事業に係る説明会」において、適正な工期が確保できないため、工期内に工事が完成しない場合はその工期の延長を認めるとともに、その工期の延長についてはペナルティを課さないことを市長として約束した。また、入札前に入札参加業者に対して、担当部署を通してこの旨を通知した。

については、施工業者から工期の延長の申請があった場合は、これら事項を踏まえ、適切に対応されたい。

